

史料探訪

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	東京都	神奈川県	山梨県	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府
	東京大学総合図書館	慶珊寺	放光寺	京都御所	泉涌寺	東寺	大覚寺	寂光寺	公益財団法人陽明文庫	公益財団法人陽明文庫	醍醐寺	醍醐寺	仁和寺	仁和寺	賀茂別雷神社
	探訪先														
	目的	慶珊寺所蔵大般若経の調査・撮影	放光寺所蔵史料の調査・撮影	京都御所東山御文庫における調査	泉涌寺文書の調査・撮影	東寺百合文書の原本調査	大覚寺所蔵史料の調査・撮影	寂光寺所蔵史料の調査・撮影	大日本古記録『平記』の原本校正	大日本古記録『後法興院記』の原本調査	醍醐寺所蔵史料の調査・撮影	醍醐寺文書の原本校正	仁和寺史料(御経蔵)の調査・撮影	仁和寺史料(書籍函)の調査・撮影	「賀茂別雷神社文書」の調査・撮影
	氏名	藤原重雄	海上貴彦・遠藤珠紀・小塩慶・岡本真・川本慎自・須田牧子・藤原重雄・堀川康史	末柄豊・山家浩樹・渡邊正男	田島公・末柄豊・渡邊正男・藤原重雄・新井重行・小塩慶	遠藤基郎・木下竜馬	石津裕之	小宮木代良・及川亘・石津裕之	尾上陽介	遠藤珠紀・井上聡	谷昭佳・小瀬玄士・高橋慎一朗	遠藤基郎・木下竜馬・高橋慎一朗	川本慎自・木下竜馬・林晃弘・藤原重雄・堀川康史	山家浩樹・岡本真・川本慎自	石津裕之・遠藤珠紀・金子拓・木下竜馬・谷昭佳
	関係部門	古代	古代・古記録・中世・特殊	中世・特殊	古代・中世	古文書	近世	近世	古記録	古記録	古文書・技術	古文書	中世・古文書・近世・古代	中世・特殊	中世・古記録・古文書・技術
	頁	76	76	76	80	82	82	83	83	83	83	83	83	83	97
	代表者	藤原重雄	堀川康史	渡邊正男	新井重行	木下竜馬	石津裕之	及川亘	尾上陽介	遠藤珠紀・井上聡	高橋慎一朗	高橋慎一朗	川本慎自	川本慎自	金子拓

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
熊本県	長崎県	福岡県	山口県	広島県	鳥根県	和歌山県	和歌山県	奈良県	奈良県	奈良県	奈良県	奈良県	大阪府	京都府	京都府
熊本大学附属図書館	対馬博物館	善導寺	玄濟寺・山口県文書館	海の見える杜美術館	鳥根県立古代出雲歴史博物館	和歌山県立博物館	和歌山県立博物館	栄山寺	宮内庁正倉院事務所	薬師寺	西大寺	東大寺図書館	公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋	京都府立丹後郷土資料館	京丹後市
永青文庫「細川家史料」の原本校正および調査・撮影	長崎県対馬市所在史料の調査・撮影	善導寺所蔵史料の調査・撮影	玄濟寺・山口県文書館所蔵福原広俊関係史料の調査・撮影	海の見える杜美術館所蔵岩倉具視関係史料の調査・撮影	鳥根県立古代出雲歴史博物館所蔵・寄託史料の調査・撮影	小川八幡神社大般若経の調査・撮影	和歌山県立博物館寄託菊池新家史料等の撮影・調査	栄山寺金石文調査	正倉院文書調査	薬師寺所蔵史料の調査・撮影	真言律宗総本山西大寺所蔵史料の原本校正・調査	東大寺文書の原本調査	武田科学振興財団所蔵『実躬卿記』自筆本による原本校正	京都府立丹後郷土資料館寄託史料の調査・撮影	丹後・丹波地域所在中世文書の調査・撮影
山口和夫・林晃弘	金子拓・須田牧子・林晃弘・畑山周平	小宮木代良・及川亘	石津裕之・及川亘	箱石大・立石了・谷昭佳	村井祐樹・畑山周平・西田友広	山口英男・田島公・尾上陽介・遠藤基郎・藤原重雄・新井重行・稲田奈津子・堀川康史・小塩慶	保谷徹	菊地大樹	山口英男・田島公・遠藤基郎・稲田奈津子・黒須友里江・小塩慶	海上貴彦・榎原雅治・及川亘・菊地大樹・小瀬玄士・林晃弘・前川祐一郎	末柄豊・高橋慎一朗・西田友広・小瀬玄士	遠藤基郎・高橋慎一朗・木下竜馬	菊地大樹・尾上陽介・井上聡・遠藤珠紀	藤原重雄・堀川康史	村井祐樹
近世	中世・近世	近世	近世	近世・技術	中世	古代・古記録・古文書	近世	古記録	古代・古文書	近世・中世・古記録・古文書	古文書・中世	古文書	古記録	古代	中世
103	102	102	101	101	100	100	99	99	98	98	98	98	98	98	97
山口和夫	畑山周平	小宮木代良	石津裕之	箱石大	西田友広	山口英男	保谷徹	菊地大樹	稲田奈津子	及川亘	小瀬玄士	遠藤基郎	菊地大樹	堀川康史	村井祐樹

1 東京大学総合図書館所蔵貴重書等の調査・撮影

二〇二一年一二月、東京大学総合図書館所蔵の貴重書・和漢書を外部業者（インフォマージュ）によりデジタル撮影した。書目は以下の通り。画像は東京大学学術資源等アーカイブズ共用サーバに搭載してWeb公開を予定しており、史料編纂所データベースにも登録済で閲覧室での利用も可能となっている。書誌未報告の書目が多数あるが、機会を改める。同館調査支援担当の谷口瑞枝氏には諸般お世話になった。併せて謝意を表す。

- 供様図式 [G-32] 野宮本 卷子一巻
- 大賞会悠紀主基鮮味之絵 [A00-6108] 野宮本 続紙一通（六紙）
- 大賞会調進物 [A00-6277] 焼け残り本 卷子一巻（一八紙）
※所報五一号七五頁
- 即位部類 [G26-898] 野宮本 洋改裝合冊二冊（元二冊+三冊）
※所報五一号八七頁
- 大賞会部類 [G26-966] 野宮本 一冊 ※所報五一号八九頁
- 蛙抄 [G26-45] 洋改裝合冊一冊（元八冊）
- 柱史抄 [G26-256] 洋改裝合冊一冊（元二冊）
- 拝賀部類記別勘 [G26-1070] 一冊
- 御産部類 [G27-828] 一冊
- 御数寄道具 [YB20-169] 洋改裝一冊
- 求古堂儲蔵書目 [A10-581] 洋改裝一冊
- 中野菟集仏教并三教及各部絵板本目録 [C40-4254] 洋改裝一冊
和学講談所本 一冊
- 醍醐天皇事記（七上） [G27-966] 和学講談所本 洋改裝一冊
- 中御門大納言宣順卿記（三） [G27-165] 和学講談所本 洋改裝一冊
- 嘉慶二年香取社神官田島目録・応永六年香取諸名帳 [C20-306] 和学講談所本 洋改裝一冊
- 和州多武峰寺増賀上人行業記 [C40-1643] 和学講談所本 洋改裝一冊
- 尊意贈値正伝 [C40-1645] 和学講談所本 洋改裝一冊

- 元果大僧都自伝 [C40-1676] 和学講談所本 洋改裝一冊
- 南都般若寺靈宝略縁起・西西寺観音堂勸進帳・東寺講堂縁起 [C40-1677] 和学講談所本 洋改裝一冊
- 文明易然集 [E31-664] 和学講談所本 洋改裝一冊
- 後光明帝御製詩集 [E45-1231] 和学講談所本 洋改裝一冊
- 神楽略譜 [F20-115] 和学講談所本 洋改裝一冊
（藤原重雄）

2 慶珊寺所蔵大般若経の調査・撮影

二〇二一年七月から翌年三月まで、慶珊寺（横浜市金沢区）所蔵大般若経全六百巻の調査・撮影を、神奈川県立金沢文庫において複数回にわたって実施した。

本大般若経は、①正中二年（一三二五）に安達泰盛の孫貞泰が武蔵国六浦莊富岡郷の鎮守八幡宮（慶珊寺はその別当寺）に寄進したもの、②文和年間から応永年間にかけて、智感以下の勸進僧が鎌倉府関係者の支援を得つつ雕造したいわゆる智感版大般若経が含まれることで著名である。現在までに全巻の撮影を終えており、調書・仮目録の作成が終わり次第、Hi-CAT Plusを通じて画像を公開予定である。

調査・撮影をお許しいただいた慶珊寺住職佐伯隆道氏、調査にあたって高配を賜った梅沢恵・貫井裕恵・三輪眞嗣各氏（以上、神奈川県立金沢文庫）にこの場を借りてお礼を申し上げる。

（海上貴彦・遠藤珠紀・小塩 慶・岡本 真・川本慎自・須田牧子・藤原重雄・堀川康史）

3 放光寺所蔵史料の調査・撮影

二〇二二年三月一〇日～一二日、放光寺（山梨県甲州市）において、同寺所蔵史料の調査・撮影を行った。放光寺の山号は高橋山。現在は真言宗智山

派。近世には醍醐寺報恩院末。安田義定の創建と伝える。調査にあたっては、御住職清雲俊雄氏及び清雲俊元氏に御高配をいただいた。また、学習院大学史料館客員研究員木村真美子氏及び山梨県立富士山世界遺産センター主幹堀内亨氏の御協力を得た。厚く御礼を申し上げたい。以下に調査・撮影史料の概要を掲げる。なお、『山梨県史 資料編4 中世1』（山梨県、一九九九年）に収録の文書には、参考として同書の文書番号を付した。

一、天正一〇年二月五日 徳川家朱印状（四四七）（（堅紙））一通

○後補包紙あり。

一、天正一七年十一月二三日 伊奈家次寺領証文（四四八）（（堅紙））一通

○懸紙ウハ書「放光寺 伊奈熊蔵」

一、慶長三年極月日 某禁制（（堅紙））一通

○端裏貼紙「慶長三丙戌極月此制札頂戴、翌年イ亥三月当寺殿堂諸宇悉焼亡／現住珍栄代、於曾村産、」

一、慶長八年三月朔日 徳川家奉行連署寺領証文（（堅紙））一通

○懸紙ウハ書「放光寺」。本来は別文書のものか。

一、（年未詳）卯月七日 徳川忠長家老連署書状（（折紙））一通

○後補包紙墨書「此包紙ハ破レ紛失ニ付包置、／駿河大納言様御家老中書状／本紙法光寺ニ有之候、／写論議年番ニ相廻リ候、」

一、寛永一九年七月一七日 徳川家光朱印状写（二通）

一、貞享二年六月一日 徳川綱吉朱印状写（一通）

一、万延元年九月一日 徳川家茂朱印状写（一通）

一、弘治元年二月一日 武田家朱印状写（二七九）（一通）

一、戊辰（永祿一年）五月一日 武田家朱印状写（二八〇）（一通）

一、戊辰（永祿一年）五月一日 武田家朱印状写（二八一）（一通）

一、天正一〇年四月日 織田信長禁制写（二八二）（一通）

一、天正一〇年二月一日 徳川家朱印状写（二八四）（一通）

一、天正一一年三月二日 徳川家朱印状写（二八五）（一通）

○右六通、原本は甲州市網野家所蔵。

一、当山檀興大願主惟肖記（（卷子装））一軸

○首題「当山檀興大願主惟肖記」

○奥書「寛文五龍集乙巳陽月吉良辰／甲陽山梨郡高橋山放光寺住持伝灯大阿闍黎権大僧都法印和尚位尊円謹記」（（継紙））一通

一、軍哥（（継紙））一通

○本奥書「永祿三年卯月下旬」

一、元亨二年三月六日 親玄讓状（（掛幅装））一幅

○縦三一・三糎×横四五・四糎。楮紙。

一、元亨二年三月六日 親玄讓状（（掛幅装））一幅

○端上に「六孫王社御神宝印」朱印あり。

一、元亨二年三月六日 親玄讓状（（掛幅装））一幅

○縦三一・五糎×横四六・四糎。楮紙。

一、（年未詳）七月二四日 冷泉為満消息（（堅紙））一通

○懸三三・八糎×横四五・八糎。あるいは染紙か。裏打あり。

一、長保二年九月二三日 東大寺返抄（（切紙））一通

○裏打あり。

一、（長久二年）二月一日 東大寺返抄案（（切紙））一通

○影写本「東大寺文書（渡辺福太郎氏所蔵）」（三〇七一・三六一―四四）に見ゆ。

一、（長久二年）二月一日 東大寺返抄案（（切紙））一通

○料紙左上破損。裏打あり。

一、（年未詳） 某仮名消息断簡（（切紙））一通

○レクタグラフ「保阪潤治氏所蔵文書」（六八〇―六八）に同文の文書あり。

一、（年月日未詳） 某仮名消息断簡（（切紙））一通

○縦二六・七糎×横一四・六糎。楮紙打紙。裏打あり。

一、（年月日未詳） 某書状断簡（（切紙））一通

○裏打紙に「後深草院」とあり。

一、（年月日未詳） 某書状断簡（（切紙））一通

○表に仮名文書の墨影あるも読めず。

一、（年月日未詳） 某書状断簡（（切紙））一通

○裏に相剝された版経（「菩薩戒本宗要」カ）の跡あり。

一、（年月日未詳） 某書状断簡（（切紙））一通

○縦二七・〇糎×横一八・五糎。裏打あり。

一、（年月日未詳） 某書状断簡（（切紙））一通

○裏打紙に「御室寛正」とあり。

○裏は版経（「妙法蓮華経 卷第四」）。

一、大般若経卷第二七三断簡

○版経。

○第一紙紙背（年月日未詳）「某仮名消息断簡」縦二三・九種×横四二・三・二種。

○第二紙紙背（年月日未詳）「某仮名消息」縦二三・九種×横四二・二種。

一、北野天神縁起絵巻詞書断簡 一枚

○縦三一・九種×横二九・九種。

○「銅細工娘の段」冒頭。

○あるいは手鑑の素材ならん。

一、諸尊要抄第八断簡 二枚

○第一紙縦二七・三種×横四二・八種、第二紙二七・三種×一・二種、第三紙二七・三種×四六・四種、第四紙二七・三種×三〇・一種。楮紙打紙。第一紙と第二紙以下とは直接にはつながらず。

○奥書「保元四年始自正月卅日五七日勤修此法之、美福門院鳥羽院御料令修之御者也」。

一、金剛界次第（折本装）一帖

○楮紙。

○首題「金剛界 高野御室」

○奥書「本云、嘉元^{午甲}三月十八日、以仁和寺居住或上人本書写校合畢、／金剛資忍阿／建武三年^{丙子}十月日於最福寺書写畢、顯空／一交畢、」

一、仁王経念誦次第（折本装）一帖

○縦一四・四種×横一二・〇種。楮紙。

○外題「仁王次第^近」

○内題「仁王経念誦次第法」

○奥書「正平廿三^{申戊}年八月十九日、於大安寺西坊書了、／金剛資尊春

／一交合了、」

一、息災護摩次第（粘葉装）一帖

○縦一四・六種×横一四・八種。楮紙打紙。

○外題「息災護摩次第」

○内題「息災護摩次第」

○尾題「息災護摩次第」

○奥書「書本云、以意教上人御本書写畢、／弘安四年十一月四日、龜谷尺迦堂書写畢、／金剛資賢^{十九}／金剛仏子能信／建武五年^{寅戊}九月十四日、於尾州中嶋郡大須庄寺嶋徳林寺書写了、／金剛仏子信慶^{卅一}／永徳二年十一月廿九日、於讚州道隆寺書了、／金剛仏子慶珍^{卅一}／（朱書）『二交了、』」

一、伝法灌頂初夜作法金剛界（卷子装）一軸

○外題貼題箋破損。打付書「三宝院 真助」

○内題「伝法灌頂初夜作法金剛界」

○奥書「天正七年^{卯己}七月吉日、御本宝性院^{ヨリ}申請書写之、／備後国市村医王寺真助南山住山之砌求之畢、／筆者羽州住秀尊」

一、伝法灌頂次第断簡（掛幅装）一幅

○外題「大治二年高山寺方便智院日記」

一、大般若経卷第四三四（折本装）一帖

○奥書「保延四年歲次戊午正月廿三日^{己酉}、執筆書写山住僧仁誉、」

一、大般若経卷第五九三断簡（掛幅装）一幅

○縦二三・八種×横第一紙四六・六種、第二紙六・二種。

○奥書「保延四年^{午戊}正月廿三日^{己酉}、書写山住僧靜暹執筆、／願主序事散位桑原宿禰貞助」

一、箱ウハ書「藤原時代写経跋」

一、大般若経卷第五九三断簡

○右二点、もと一具ならん。

一、大般若経卷第二二断簡

○あるいは右三点と同じく「円教寺経」ならん。

一、大般若經卷第九四断簡 一枚

一、大般若經卷第一五三断簡 一枚

一、大般若經卷第四六六断簡 (掛幅装) 一幅

一、大般若經卷第四六六断簡 (掛幅装) 一幅

一、大般若經卷第一六断簡 (掛幅装) 一幅

○冒頭「相無実以不知故即妄分別」

一、伝貞慶筆断簡 一枚

- 一、古今和歌集卷第二〇断簡 一枚
- 〇一〇九四〜一〇九六。
- 一、後撰和歌集卷第一断簡 一枚
- 〇二五〜二八。
- 一、後撰和歌集卷第一九断簡 一枚
- 〇一三〇四〜一三〇五。
- 一、続千載和歌集卷第一三断簡 一枚
- 〇一三七〇〜一三七一。
- 一、伝紀貫之筆玉葉和歌集卷第一八断簡 一枚
- 〇二五六五。
- 一、伝二条為定筆和歌集断簡 一枚
- 〇「後拾遺和歌集」五一八・五三六・五三八。
- 一、伝住吉具慶筆藤原俊成歌仙絵 一枚

(末柄 豊・山家浩樹・渡邊正男)

4 京都御所東山御文庫における調査

- 二〇二二年一〇月二五日(月)〜二七日(水)、二九日(金)〜三一日(日)、京都御所に赴き、二〇二一年度科学研究費補助金(基盤研究(S)) 課題「天皇家・公家文庫収蔵史料の高度利用化と日本目録学の進展―知の体系の構造伝来の解明」(研究代表者 田島公)の遂行、ならびに『大日本史料』第二編・第三編・第八編・第九編の原稿作成・校正等のため、東山御文庫御物の調査を行った。主な調査史料は以下の通り。
- 勅封一七一―四 源基綱朝臣記(時範記) 一冊
- 勅封一七一―五 師時卿記(長秋記) 一冊
- 勅封一七一―六 鯨珠記(師遠記) 一冊
- 勅封一八一―四 不知記(洞院公定日記) 一卷
- 勅封二九―二 神宮御所奏事始等文書 五六点
- 勅封二九―三 神宮遷宮回祿仮殿等文書 六八点

- 勅封一六二―九 御産記(小右記) 一冊
 - 勅封一七四―二―二五 禁裏御蔵書目録 一冊
 - 勅封一七四―四―二九 御額目録 三通
 - 勅封一七七―四―二 江家次第 釈奠之事上申日春日祭之事 一卷
 - 勅封一七八―五―三 准后貞子九十賀記(宗冬卿記抄) 一卷
 - 勅封一八〇―一 洞院家記 二二二冊
 - 勅封一八二―二 仙洞御鎮守歌仙額類 二二二冊
 - 勅封一八二―九―二二 日次記以下御目録 一冊
 - 勅封一八八―三―三 伏見天皇御歌集 雑部 一卷
- 調査には六名の所員が参加した。
- (田島 公・末柄 豊・渡邊正男・藤原重雄・新井重行・小塩 慶)

5 泉涌寺文書の調査・撮影

二〇二二年一月一七日〜一九日、京都市泉涌寺宝物館心照殿に出張し、同寺所蔵「泉涌寺文書」および同館寄託「戒光寺文書」の調査・撮影を行った。調査にあたっては同館学芸員西谷功氏に大変お世話になった。厚く御礼を申し上げる。

〔泉涌寺文書〕

「古文書(近代以前)」として分類される史料群の調査を行った。二〇一九年度調査分と合わせて、『泉涌寺史』資料篇(法藏館、一九八四年)所収分は、一号(資料篇が典拠とする底本は未調査)、二号・三号(他館寄託中)、五七号・九八号・一一九号・一七二号(未調査)、一四四号(悲田院文書)、二二三〜二三二号(未調査)を除く全点をデジタル撮影した。資料篇未収分は、開山俊仍の伝記や寺誌、近世の寺領判物朱黒印状写、制法・規式に関する史料を中心に撮影した。資料篇未収分の略目録は左記の通り(番号は泉涌寺宝物館の仮目録による)。

F236 徳川將軍朱黒印状写(安楽光院宛) 元和元〜安政二年 一通

F237 徳川家綱朱印状写(泉涌寺宛) 寛文五年七月一日 一通

F238	江戸幕府勘定組頭連署状写	延宝六年一〇月	一通	F275	旧山規	宝永二年三月八日	一通
F239	旧記(先帝御代記)	(年月日未詳)	一卷	F276	覚園律寺鐘銘写	(年月日未詳)	一通
F240	徳川綱吉朱印状写(泉涌寺宛)	貞享二年六月一日	一通	F277	浄光明寺塔中玉泉院小鐘銘写	元禄一五年八月上旬	一通
F241	徳川綱吉朱印状写(泉涌寺宛)	貞享二年六月一日	一通	F280	相陽泉谷山浄光明寺鐘銘写	(年月日未詳)	一通
F242	徳川吉宗朱印状写(泉涌寺宛)	享保三年七月一日	一通	F281	備後浄土寺・同末寺梵鐘覚	卯六月	一冊
F243	徳川家重朱印状写(泉涌寺宛)	延享四年八月一日	一通	F284	正親町天皇綸旨・寺領判物朱印状・今熊野観音堂関係文書写	(年月日未詳)	一卷
F244	徳川家治朱印状写(泉涌寺宛)	宝曆一二年八月一日	一通	F287	女房奉書写	寛文六年一二月日	一冊
F245	徳川家斉朱印状写(泉涌寺宛)	天明八年九月一日	一通	F292	常住道具預帳	延宝九年六月二日	一冊
F246	徳川家茂朱印状写(泉涌寺宛)	万延元年九月一日	一通	F293	覚(縁起并什宝物)	(年月日未詳)	一冊
F247	覚(泉涌寺朱印高二付)	寅九月一日	一通	F294	覚(縁起并什宝物)	申五月	一冊
F248	覚(泉涌寺・末寺朱印高二付)	寛政元年六月	一通	F298	泉涌寺殿堂并什物色目	(年月日未詳)	一冊
F249	泉涌寺御朱印頂戴目録	嘉永七年	一通	F299	大方丈裏之間道具録	弘化二年八月	一冊
F251	戒光寺御朱印頂戴目録	安政六年	一通	F304	什物帳	(年月日未詳)	一冊
F252	口上(朱印状の村名相違二付)	卯(正徳元年)五月一〇日	一通	F310	泉涌寺宝什物帳	(年月日未詳)	一冊
F253	謹言上(東福寺領へ掛る由の境内地二付)	卯九月七日	一通	F316	今度絹布巻物寸尺覚帳	(年月日未詳)	一冊
F254	敬法門院寄附状	(年月日未詳)	一通	F317	口上書(後水尾天皇寄附羯鼓等二付)	庚午一二月	一通
F255	口上(朱印改二付)	申(享保元年)一二月	一通	F318	目録(後西院信仰の舍利寄進二付)	貞享二年五月二日	一通
F256	泉涌寺御朱印頂戴目録	享保二年三月	一通	F320	覚(大楽寺・慈恩院朱印状写等二付)	享保二〇年三月	一通
F257	覚(黄衣・紫衣綸旨二付)	(年月日未詳)	一通	F321	上御所御覧目録	宝曆一四年二月一九日	一通
F258	巳年免定	正徳三年一二月	一通	F323	靈光額字并裏書添状	(年月日未詳)	四点
F259	泉涌寺并末寺御朱印高	(年月日未詳)	一通	F324	口上之覚(寺格二付)	丑一二月	一通
F260	戒光寺御朱印頂戴目録	安政六年	一通	F325	東山泉涌寺改帳	元禄五年六月	一卷
F261	行賢・興弘連署状	(年月日未詳)	一通	*後半は「泉涌寺文書」〔『泉涌寺史』資料篇〕一八四号。			
F270	泉涌寺清衆規式	(年月日未詳)	一冊	F326	寺改帳	元禄五年六月日	一冊
F271	泉涌寺規式案	慶安二年五月八日	一通	F353	寛文十二年臘月日次記抜書	寛文一二年一二月一日	一通
F272-1	東山泉涌律寺住僧自誓之状	承応三年正月吉日	一卷	F393	覚書(十五番観音堂二付)	丑(慶安二年)二月九日	一通
F272-2	当山制法	寛文一〇年一〇月七日	一通	F401	御懺法講之道場差図	元和五年	一点
F273	掟	寛文八年五月下流	一通				
F274	雲龍院招提僧坊式法	天和二年一二月晦日	一通				

F407	法金剛院照岳交衆請文	慶安三年三月七日	一通
F582	後西院開山国師再号之御宸翰写	万治元年二月二日	一通
F592	証書(湛照禪師靈塔引渡二付)	弘化四年八月	一通
F642	吉良義冬書状写	(寛文四年)閏五月一日	一通
F687	泉涌寺中旧跡書上案	(年月日未詳)	一通
F695	旧記	(年月日未詳)	一冊
F697	安楽光院過去名帳	(年月日未詳)	一冊
F698-1	泉涌寺維那私記	安政二年	一冊
F740	勅会堂塔供養書拔	(年月日未詳)	一通
F742	覺園寺前住泉涌寺江入院出世仕候旧例	(年月日未詳)	一通
F744	院参ニ付勸家差出入留メ	未七月二五日	一通
F770	開山国師伝記(泉涌寺不可棄法師伝)	(寛永一九年)	一冊
F771	泉涌寺要集	(年月日未詳)	一冊
F772	泉涌寺殿堂色目	享保三年二月一日	一冊
F773	当山開祖并仏牙伝来	(天保一五年)	一冊
F774	清衆規式	(年月日未詳)	一冊
F775	御仏事等書物之写	寛文五年六月日	一冊
F776	東寺塔供養記	寛文九年(写)	三冊
F777	東山泉涌寺重修日記	元禄八年一六六年	一冊
F778	靈会日鑑	(年月日未詳)	一冊
F779	御中陰女房奉書等写	(年月日未詳)	一冊
F780	ちや消息	(年月日未詳)	一通
F781	太閤秀吉公御朱印写・御当代御朱印写	(年月日未詳)	一冊
F782	古文書類目録覚	(年月日未詳)	一冊
F783	当寺造営書物之写	寛文五年六月日	一冊
F784	女房奉書之写	寛文五年六月日	一冊
F791	御代々尊儀并当院先師年曆(雲龍院)	天保四年二月日	一冊
F796	雲龍院由緒記写	(年月日未詳)	一冊
F797	御寄附御品記録	(年月日未詳)	一冊

F798	東山泉涌寺方丈輪番相渡道具之目録	寛文九年六月日	一冊
F813	勅書并院宣女房奉書写断簡	寛永一三年(写)	一通
F820	江戸幕府勘定組頭連署状写	延宝六年一〇月	一通
F967	三宅光信書状	(年月未詳)七月一八日	一通
F968-1	出納大藏書状	(年月未詳)七月一八日	一通
F968-2	出納大藏書状	(年月未詳)七月一八日	一通
F981	古文書類目録覚	(年月日未詳)	一通
F982	勅書并院宣女房奉書写断簡カ	(年月日未詳)	一通
F994	新調物諸道具之目録	寛文八年二月日	一冊

〔戒光寺文書〕
一、北京戒光律寺古記 (小瀬玄士・林晃弘) 一卷

6 東寺百合文書の原本調査

二〇二一年一〇月二七日から二九日にかけて、京都府立京都学・歴史館(京都府)において、『大日本古文書』東寺文書編纂のため、同館所蔵「東寺百合文書」ね函の文書の原本校正を行った。
(遠藤基郎・木下竜馬)

7 大覚寺所蔵史料の調査・撮影

二〇二二年一月一四日、『大日本史料』第十二編之六十三冊の編纂のため、大覚寺(京都市右京区)に出張し、同寺所蔵「元和九年灌頂記」の調査・撮影をおこなった。調査・撮影に当たっては、大覚寺管財課の皆様、京都産業大学教授石川登志雄氏に大変お世話になった。記して謝意を表する。
(石津裕之)

8 寂光寺所蔵史料の調査

二〇二二年一月一七日に京都府京都市の寂光寺に出張し、『大日本史料』第十二編之六十三冊に収録予定の初代本因坊算砂寂滅（元和九年五月十六日の条）に関連して、同寺所蔵史料の調査・撮影を行った。調査にあたっては、大川定信住職に一方ならずお世話になった。この場を借りて謝意を表す。

なお、撮影史料は以下のとおりである。

- 本因坊算砂肖像画
- 本因坊算砂囲碁狂歌 元和三年三月吉日
- 寂光寺過去帳
- 寺要用
- 寂光寺絵図

天明八年十二月

以上

（小宮木代良・及川 亘・石津裕之）

9 大日本古記録『平記』の原本校正

二〇二二年一月一七・一八日、京都市右京区の公益財団法人陽明文庫において、同文庫所蔵の『親信記』古写本四巻（第十三函一〜四号）・『行親記』古写本一卷（同第六号）・『定家記』古写本一卷（同第七号）を調査し、大日本古記録『平記』上編纂のための原本校正を行った。

（尾上陽介）

10 公益財団法人陽明文庫所蔵『後法興院記』の 原本調査

二〇二二年三月に、京都市右京区の公益財団法人陽明文庫において、同文庫所

蔵の『後法興院記』（七函一〇〜一三）の原本調査を行った。

（遠藤珠紀・井上 聡）

11 醍醐寺所蔵史料の調査・撮影

二〇二二年九月六日より八日までの三日間、京都市伏見区醍醐寺に出張し、継続事業として文書・聖教の原本調査および第四五三函・四五四函のデジタル写真撮影を行った。

（谷 昭佳・小瀬玄士・高橋慎一朗）

12 醍醐寺文書の原本校正

二〇二二年一月三日より五日までの三日間、および二〇二二年三月七日より九日までの三日間、京都市伏見区醍醐寺に出張し、『大日本古文書 家わけ第十九 醍醐寺文書之十九』の出版準備のため、第二十五函の原本校正を行った。

（遠藤基郎・木下竜馬・高橋慎一朗）

13 仁和寺所蔵史料（御経蔵）の調査・撮影

二〇二二年一月十五日から一七日まで、および二〇二二年三月七日から九日まで、総本山仁和寺（京都市右京区御室大内）を訪れ、同寺所蔵史料のうち御経蔵第九〜百十三箱および第百二十三箱について調査を行い、デジタルカメラによる全文撮影を行った。本探訪の実施にあたっては仁和寺管財課朝川美幸氏にご高配を賜った。記して御礼申し上げる。

なお、撮影史料のうち第百九箱について、史料に同梱されている「奈良国立文化財研究所作成目録」に削除を施した略目録を左に掲げる。

史料名については、下に（ ）を付して表題として採った字句の書かれた場所を示した場合があり、（ ）で奈文研目録の記載に補ったものがある。

朱書は「」、法量は縦×横センチメートル。

仁和寺御経蔵百九箱（灌頂二）

一 蓮台（仁和寺灌頂院天正六年五月）二枚

（包紙）「蓮台（仁和寺灌頂院／天正六年五月）二枚」

（一）絹本着色、裏打ち、虫損。裏面に墨書「仁和寺／灌頂院」。六七・八

×六五・〇。

（二）紙本着色、裏打ち、虫損。裏面に墨書「天正六（戊／寅）年五月下

旬新図之、仁和寺」。六三・七×六四・八。

（二）六 一括

（包紙）「伝法灌頂部類記^甲乙二冊／又^上二冊（以上抹消）／伝法灌頂部類

記第八（真光院／表白）一冊／灌頂支度等 一冊／灌頂雜例 三冊（已

上九冊）。巻数包紙ウハ書「愛染明王供巻数 金剛峯寺学侶大衆敬白」

を転用し、包紙「伝法灌頂部類記^甲乙／又^上」としたものを再転用。

二 灌頂雜例（道場等）（外題）一冊 大和綴

（奥書）「弘安八年乙酉正月五日、於洛陽東山金山院、／自東寺宝東房申出

師匠書写畢、／金剛位蓮眼（星霜／五十五云々、）／「二交了、」

天保十三年十一月廿六日書写之了、 仏子照道」

三 灌頂雜例^{支干}（外題）一冊 大和綴

（奥書）「弘安八年乙亥^西二月十四日、於洛陽金山院書写了、／縛日羅蓮

眼^{云々}、／一交了、

天保十三年十一月廿三日書写之了、

四 灌頂雜例^{囉囉等}（外題）一冊 大和綴

（奥書）「弘安第七曆中冬四七日、於花浴。東金山院終写、／求最上乘沙門

蓮眼（春秋七々云々、）／一交了、

相承口説云、此抄三帖常喜院撰集也、其後大開田殿^{（法助）}／常喜院以下先德証

令勘副之御、共以為明鏡者／歟、又此中支干囉囉大体被用之、但于今以

門跡繁／昌之囉囉等可為佳例也云々、／此条雖有憚、依恐康忘記之、（梵

字・vam）／応永廿六年六月。七日設之、 禪基法師／做^{シテ}

這雜例三帖、以或人所持上件古本写留之了、／文政八年夏四月十五日
権僧正深融

天保十三年十一月廿七日、以真乘院前大僧正自筆本、草々令書写之
了、大僧都照道」

五 伝法灌頂部類記第八（真光院／表白）（外題）一冊 大和綴

（扉ウ）「随撰出次第不同／書之、／成助類集之、」

（奥書）「元徳二年潤六月 日、故僧正御房授与表白予／類集之、惠命院燒

失之時、多以令紛失歟、／権僧正（花押影）

成^助僧正御房筆也、為後生書之、／永正十一九十、於灯下謹拝読之、尊

海（四十／三）

右早々書写之了、 権大僧都照道（廿又／四）」

六 灌頂支度等（外題）一冊 仮綴

（巻中識語）「朱書以部類記書之、示異了、」／「已上一音坊自筆書写之、

来三月廿七日貫首宮御灌頂之儀有為用意而已、

元治二年二月廿日 僧正照道」

（奥書）「已上以伝法灌頂部類記、私拔書之了、 照道」

（七）一六 一括

（包紙）「五色糸事／用分」。裏面「密」。

七 五色糸縫作法（美一方）（外題）一帖 折本 後欠

（巻中識語）「永和元年乙亥 五月廿三日、先師相承分記之、

当年至徳二年〔己丑〕八月十七日、除異／説当用之分令抄出畢、 宝性院

／法印宥快」

八 五色線縫作法（在供養法／広沢）（表紙貼紙外題）一帖 折本

（本奥書）「正応六六廿九、於大悲心院写之、 寂禪」

（印記）朱重郭長方印「仁和寺／華嚴院」（冒頭・末尾）

（備考）指図・尺図（金尺・竹量・周尺）あり。

九 糸縫私記 二紙

（一・二 包紙）「糸縫私記」

（一）糸縫私記（外題）一紙 折紙

(包紙)「灌頂」／五色線縫作法〔私記〕

(内題)「伝法灌頂系統私記」

(奥書)「此一紙、今年宮御灌頂系統為用此様記之、雖多説今扱一儀後日可有捨者也、／金剛仏子宥」

(印記)裏面に朱重郭長方印「仁和寺／華嚴院」

(備考)彩色図あり。

(二)系統私記(外題) 一紙 折紙

(内題)「伝法灌頂系統私記」

(備考)図は略図。

一〇 伝法灌頂(系統当日)等曜宿 一紙 折紙

(包紙)「伝法灌頂(系統／当日)等曜宿」

(全文)「系統／三月十二日(月曜／軫宿)／御当日／三月廿六日(月曜／奎宿)」

一一 五色系縫作法一結 一結五占

(包紙)「五色系縫作法 二帖四紙」

(一)五色系縫作法(付供養作法等)(外題) 一紙 折紙

(奥書)「□□大僧都自筆之御本申出書写之、宏證」

(印記)墨重郭長方印「仁和寺／皆明寺」

(二)五色系縫作法事(外題) 一紙 折紙

(奥書)「此一帖、宝曆二年／宮御灌頂之時、尊寿院隆大僧正／賜御本書写了、／金剛仏子宥」／本紙者頭證之筆跡也、／仁和寺尊寿院之印有也、

右、明和八年九月、以真光院御本／写功了、金剛仏子宏證」

(印記)墨重郭長方印「仁和寺／皆明寺」

(備考)略図あり。

(三)系統私記(外題) 一紙 折紙

(内題)「伝法灌頂系統私記」

(奥書)「此一紙、今年 宮御灌頂系統為用此様記之、雖多説今扱一儀後日可有捨者也、／金剛仏子宥」

安永八年九月十四日、以師主御房御本謄写了、／禪證」

(四)五色系供養作法(外題) 一紙 切紙

(五)系縫作法私略忠俊(外題) 一紙 切紙 押界

(表紙右下)「摩尼珠院」

(奥書)「以理智院御筆書之、／天正十一年正月吉日 忠俊」

(二・一三 一括)

(包紙)「系統私記(金剛線 齒木白練／胎壇糸)／寛盛」

(印記)朱重郭長方印「仁和寺」〔華嚴之院〕

一一 私系縫私(外題) 一帖 折本

(奥書)「天保十三年九月、以石山寺知足院僧正自筆／本書留之了、大僧都照道」

一三 系統私記(金剛線 齒木白練／胎壇糸) 一冊

(包紙)「系統私記(金剛線 齒木白練／胎壇糸)／寛證」

(一)系統私記(外題) 一紙 折紙

(内題)「伝法灌頂系統私記」

(奥書)「此一紙、今年 宮御灌頂系統為用此様記之、雖多説今扱一儀後日可有捨者也、／金剛仏子宥」

(裏識語)「師主法務前大僧正御本申出、則御自／筆之御本ニテ奉写了、

／明和八年二月十四日(梵字:Varia)寛證(花押)」

(備考)彩色図あり。

(二)「系統私記」 一冊 小横帳

(奥書)「明和五年四月十七日、以師主御筆／御本書写了、

金剛仏子禪證」

(備考)指図あり。

一四 五色糸事(内題) 一帖 粘葉装 表紙欠

(包紙)「五色糸事端欠／第廿六箱」裏「茲一帖者、上加茂西池越中守」

(奥書)「此書常喜院云々、／校合了、」

(二五・一六 一結)

(包紙)「献上／榧油 式瓶」とあるものを転用。

一五 五色糸縫作法事 一結 ※(一)(二) 入れ違い。ラベル番号に従う。

(二) 文政十年線縫用意之事 一紙 折紙

(外題) 「糸縫用意之事」

(内題) 「糸縫事(作法二紙在別、アサ梨作法及助僧作法也)」

(奥書) 「右文政十年丁亥三月廿五日、諸堂之壇施糸縫之寺記之、」

(二) 宝曆二年頭証筆五色糸縫作法事 一紙 折紙

(内題) 「五色糸縫作法事(近来兼縫儲之、本儀ハ調支具時也)」

(奥書) 「此一帖、宝曆二年宮御灌頂之時、尊寿院隆大僧正賜御本書
写了、金剛仏子宥證本紙者頭證之筆跡也、仁和寺尊寿院之印有也、」

(三) 宥証筆 糸縫私記 一紙 切紙

(外題) 「曳五色糸様事」

(四) 或五色糸様事 一紙 折紙

(外題) 「五色線両目」

(五) 灌頂夜凶胎(外題・朱) 一紙

(備考) 道場指図

(六) 右縫左縫之事(安永八年九月) 一紙 切紙

(奥書) 「安永八年九月十三日記之、即今度本寺之糸縫有之、今古差別
如是有沙汰、為備廢忘記之者也、禪證以禪筆跡写之了、沙門(花
押)」

(七) 印可道場図 一冊 仮綴

(八) 糸縫 一紙 切紙

一六 伝法灌頂糸縫私記(内題) 一紙 折紙

(外題) 「糸縫私記」

(印記) 朱重郭長方印「浄光院」

(奥書) 「此一紙、今年宮御灌頂糸縫為用此様記之、雖多説今抛一儀、後
日可有捨者也、金剛仏子宥一」

〔一七〕三五 一括

(包紙一) 灌頂行列等

(包紙二) 白紙

〔一七〕二七 一括

(包紙) 「享保十一」行列五卷/外二式卷添、朱重郭長方印「仁和寺/真
乘院」

一七 慈道上之行列(外題) 一卷

一八 從御殿幔門迄之行列 一卷

一九 (行列図) 一卷

(備考) 一七、一九は一具。外題下「真乘院」。人名あり。

二〇 享保十一年三月十三日 行列 六卷

(一、六 印記) 朱重郭長方印「仁和寺/真乘院」。

(二) 五卷之内/二(十三日)(外題)

(内題) 「壹/三月十三日/從御殿幔門迄之行列」

(二) 十三日/幔之内行列 壹(外題)

(内題) 「式/三月十三日/慈道之上行列」

(三) 五卷之内/三 十三日晚(外題)

(内題) 「三月十三日晚/從金堂食堂迄/御成御行列」

(四) 外題なし

(内題) 「四/三月十四日朝/嘆德之時、從幔門觀/音堂迄御行列」

(五) 十四日/幔之内還列 式(外題)

(内題) 「參/三月十四日/慈道之上還列」

(六) 五卷之内/一十三日朝

(内題) 「三月十三日朝/送支具行列」

(備考) (四) を除き、人名あり。

〔二一〕二七 一括

二一 享保 勘例 一通 折紙

(包紙) 「西酉/勘例」

(本文) 「釈迦院有雅/寛文八年九月六日/転僧正(卅五歳) /: 報恩院実
雅/享保八年四月八日/叙法眼(十三歳) /同十年十一月六日/任少僧
都(十五歳) /法眼申上候時ハ憲濟、/当秋改名、(以下追筆) 覚勝院長
敵/享保四年七月十八日/任權僧正(廿四)」

二二 石山衆中(包紙) 一通 折紙

(内題)「享保十年之年戒」

(内容) 密嚴院權僧正尊遍、吉祥院權僧正宥證、世尊院式部卿權大僧都景通、侍從權大僧都尊濟、法輪院少將權少僧都宥応、宝性院宰相權律師隆遍を列挙。

二三 高尾山年戒 一通 折紙

(包紙)「上/高尾山年戒」

(末尾)「享保十一年正月」

(内容) 地藏院權大僧都(中将・禪深)、迎接院權律師(侍從・尊香)、翫玉院權律師(少納言・禪亮)

二四 元禄五年三月十二日先門主御灌頂例(内題) 一通 折紙

(内容) 着座公卿以下諸役交名。

二五 醍醐寺山上山下年戒(包紙・内題) 一通 折紙

(内容) 普賢院權僧正宣雅ほか全十五名(賢晃・運助・賢繼・真円・演尊・演深・演春・澄翁・亮祐・貞隆・堯遍・演鮮・演静・堯盛)。享保元年十二月廿六日以降。

二六 御室仁和寺年戒 一通 折紙

(末尾)「享保十年之年戒也」

(内容) 密嚴院權僧正尊遍、尊寿院權僧正隆幸、覺勝院權僧正長敏、吉祥院權僧正宥純、安養院權僧正運助、光台院權僧正賢繼、報恩院法印栄遍、南勝院法印秀瑜、地藏院權大僧都禪深、行樹院權大僧都真円、往院權大僧都景遍、權大僧都尊濟、皆明寺權大僧都孝耀、真光院少僧都孝詮、密嚴院權少僧都演深、成身院權少僧都演春、弥勒院權少僧都澄翁、戒光院權少僧都亮祐、法輪院權少僧都宥応、花嚴院權律師詮雄、宝性院權律師隆遍、迎接院權律師尊香、龍玉院權律師禪亮。灌頂諸役の書込みあり。

二七 灌頂職衆交名 その他 不明断片 一結 五紙

(包紙) 白紙

(一) 灌頂職衆交名 一紙 折紙

(印記) 朱重郭長方印「仁和寺/真乘院」

(二) 灌頂職衆交名 一通 切紙

(三) 灌頂職衆交名 一紙 折紙

(四) 灌頂道具覚 一紙 切紙

(五) 覚 一紙 切紙

〔二八〕三〇 一括〕

二八 行列 四卷

(一) 菴道之行列(内題)

(二) 菴道之還列(内題)

(三) 御殿ヨリ之行列(外題)

(四) 御殿江送列(内題)

(備考) (一) (四) 人名あり。「御受者親王」。

二九 〔行列〕 二卷

(一) 御殿ヨリ幔門迄行列(内題)

(二) 菴道之上行列(内題)

(備考) (一) (二) 人名あり。「御受者親王」。

三〇 〔行列〕 二卷

(一) 御殿ヨリ幔門迄行列(内題)

(二) 御殿江還列(内題)

三一 庭儀灌頂行列次第(明曆三年)(表紙) 一冊 横帳

(表紙) 右上「水丁二」

(書出)「明曆三丁酉年二月廿五日/御室二品親王御灌頂」

(印記) 朱重郭長方印「石山寺/密嚴院」(表紙)

三二 享保十一年三月御灌頂行列(表紙) 一冊 横帳

(印記) 朱重郭長方印「石山寺/真乘院」(表紙)

(内容)「三月十三日/從御殿幔門迄行列」、「三月十三日/菴道之上還列」、「三月十四日朝/嘆德之時、從幔門觀音堂/迄御行列」、「三月十四日朝/從觀音堂御殿迄御行列」。人名あり。

三三 宝曆二年壬申三月廿四日御灌頂行列等 (表紙) 一冊 横帳

(内容) 「三月廿四日朝/送支具行列」、「三月廿四日朝、支具ノ時/大阿闍梨行列」、「三月廿四日、從御殿幔門迄行列」、「三月廿四日晚/御受者從金堂食堂迄行列」、「三月廿五日、曠德之節/從幔門觀音堂^江行列」、「三月廿四日、/從觀心堂御殿^江還列」、「廿四日、/蓮道之上行列」、「廿五日、/蓮道之上還列」、着座公卿以下諸職交名。

三四 御当日送支具行列 一冊 横帳

(表紙) なし。

(内容) 「御当日送支具行列」、「御当日調支具時/大阿闍梨參堂行列」、「同時刻從僧列」、「從御室幔外御列」、「幔門内蓮道行列」、「同(後朝)幔外曠德所迄列」、「御列中法服并/召具類」。人名なし。

三五 元治二乙丑年三月廿六日初/御灌頂御大札御当日人数配(一の表紙)

二冊 横帳

(一) (表紙左下) 川原畑房治

(二) (表紙) 御灌頂御行列/川原畑房治

(備考) 人名なし。三四号の類本。

(三六~四五 一括)

(包紙) 「真言宗灌頂御願記(二) 大師伝法灌頂私記/伝法灌頂師資相承略抄(第二/第七)《八九複二冊》 伝法灌頂珍規抄(三) /灌頂弟子十徳 伝法灌頂記/伝法結縁兩灌頂十弟子問事(二) 已上九冊」

三六 伝法結縁兩灌頂十弟子問事 (表紙) 一冊 袋綴横小本

(奥書) 「永正十四年六月十四日/右筆仁瑜/金剛仏子宗源/一交了、寛政六甲寅年六月十二日、以右御本/書写比交了、/〔梵字: var. 1〕 尊觀 天保六年六月六日、以石山寺密/藏院尊觀僧正自筆本書写/之了、(午時開筆) /西院末資照道」

三七 伝法結縁兩灌頂十弟子問事 (表紙) 一冊 袋綴横小本

(表紙) 右上隅『結了』、貼紙「永正十四仁和南勝院仁瑜ノ本書写」
(奥書) 「永正十四年六月十四日/右筆仁瑜/金剛仏子宗源/一交了、寛政六甲寅年六月十二日、以右御本/書写比交了、/〔梵字: var. 1〕 尊觀」

三八 灌頂弟子十徳 (表紙・内題) 一冊 袋綴

(奥書) 「安永甲午夏四月日 権僧正(如審) 稽顙拜書」

三九 伝法灌頂珍規抄 (表紙・内題) 一冊 袋綴

(表紙) 紺紙に朱書外題。右下「真乘院」
(奥書) 「元亨元年四月十五日書写了、/此記者最弁法眼作也、但裏所書者/予勘抄之、 権少僧都了賢
天正二甲戌六十六、為余本書写之、」

(備考) 『真言宗全書』二七。

四〇 伝法灌頂珍規抄 (表紙・内題) 一冊 袋綴

(表紙) 濃紺紙に貼紙外題。
(内題下) 「石山寺/自性院」
(奥書) 「本云」として三九号に同じ。後ろ表紙見返し墨書「寛永九年極月八日」。

四一 伝法灌頂珍規抄 (表紙・内題) 一冊 袋綴

(扉題下) 「最弁威儀師作」
(本文) 朱書による校合あり。
(奥書) 三九号に同じ。さらに

「右以心蓮院経庫之古書本書写之了、惜哉、始欠所々不審、/尚追而以余本等補欠可削誤者也、/天保四年秋九月廿一日(戌刻計)/持念沙門照道」

『天保丁酉年夏六月、以尊寿院本校之、以朱示異補欠了、』

四二 大師伝法灌頂私記 (表紙・扉題) 一冊 袋綴

(扉題) 「大師^{〔此本外題也〕}伝法灌頂私記」
(奥書) 「東寺宝菩提院経藏之本令懇望、於尊寿院住房、凌/炎氣写取之了、件本遍智院僧都道教御自筆也、/万治二年六月六日 広沢末弟顕證(行年/六十三) /此本奉進納御経藏了、」

天保九年春三月十夜、於灯下以御所御経庫一音坊/自筆写功之了、
沙門照道」

四三 伝法灌頂師資相承略抄 第二 (表紙) 一冊 袋綴

〔扉題〕「^{性信等}伝法灌頂師資相承略抄第二」

四四 伝法灌頂師資相承略抄 第七〔表紙〕 一冊 袋綴

〔扉題〕「^{貞徳僧正}伝法灌頂師資相承略抄第七」

四五 伝法灌頂師資相承略抄 第八 一冊 袋綴

〔表紙〕「伝法灌頂師資相承略抄 八九」

〔扉題〕「^{惟正}伝法灌頂師資相承略抄第八」

〔扉題〕「^{因幡僧正}伝法灌頂師資相承略抄第九」

〔印記〕朱重郭長方印「石山寺／皆明寺」

〔四六〕五〇 一括

〔包紙〕「灌頂職衆交名」

四六 寛文三癸卯十一月十六日 色衆交名 一卷

〔末尾〕「大覚寺宮二品親王庭儀御灌頂色衆／請定／寛文三癸卯十一月十六日」

〔印記〕朱重郭長方印「仁和寺／真乘院」

四七 元禄五 御灌頂職衆交名 一卷

〔端裏〕「元禄五」

〔書出〕「御灌頂職衆交名」

四八 同 一卷

〔書出〕「御灌頂職衆交名」

〔印記〕朱重郭長方印「仁和寺／真乘院」

四九 惣法務一品親王勅云／伝法灌頂職衆交名〔内題〕 一通 折紙

五〇 伝法御灌頂職衆交名 一通 折紙

〔外題〕「^{大阿闍梨}左／伝法御灌頂職衆交名／自性院大僧正孝宥」

〔五一〕六一 一括

〔包紙〕「道場図」

五一 戒場差図・初後夜差図・印可道場差図 一結 三紙

〔一〕三・包紙「戒場差図／初後夜差図／印可道場差図／結縁道場図」

〔二〕〔端裏〕「戒場差図」。二七・九×三九・八。

〔二〕〔端裏〕「初後夜差図」。二八・〇×四一・一。

〔三〕〔端裏〕「印可道場差図」。二八・〇×四一・二。

五二 道場差図 一結 六紙

〔二〕〔端裏〕「集」。最大四四・〇×四七・〇。貼紙による修正あり。

〔二〕〔端裏〕「嘆」。二七・七×六九・七〔二紙〕。文書包紙の転用、ウハ書□□院大僧都御房 定隆」。

〔三〕〔端裏〕「受」。二八・〇×四一・二。左上に切り欠きあり。

〔四〕〔端裏〕「三」。四〇・九×五五・三。貼紙による修正あり。

〔五〕〔端裏〕「夜」。六四・三×四〇・六。貼紙による修正あり。

〔六〕〔端裏〕「庭」。三三・二×七九・〇（横は最大、縦は下方にさらに二九・〇の貼継ぎあり）。

五三 付真乘院三昧耶戒之時庄嚴図之〔内題〕 一紙 二七・九×四〇・七。

五四 初夜内陣図〔就真乘院灌頂堂記之〕 二点

〔一〕初夜内陣図〔就真乘院灌頂堂記之〕〔内題〕 二七・八×八〇・九〔二紙〕。

〔二〕後夜内陣図〔就真乘院灌頂堂記之〕〔内題〕 二七・八×八一・〇〔二紙〕。

五五 大壇莊嚴図 小壇所図 二点

〔一〕大壇莊嚴図／小壇所図〔外題〕 五〇・二×六七・五。彩色。

〔二〕大壇莊嚴図／小壇所図〔外題〕 四九・〇×六九・八。彩色。

〔印記〕朱重郭長方印「仁和寺／華嚴院」〔裏〕

〔備考〕〔一〕の単純な転写でないが同内容。

五六 集会所差図〔観音堂／明曆三〕〔外題〕 一紙

〔外題〕「集会所差図〔観音堂／明曆三〕 顕證」。三四・一×四八・五。

〔裏書〕「寛喜記云：」

五七 伝法灌頂差図 一鋪 彩色 四九・五×八六・〇。

五八 灌頂道場差図 一通

〔印記〕朱重郭長方印「仁和寺／真乘院」。

〔奥書〕「右之図、以別本写添置者也、／宝永六年五月十日 広沢末葉 教宥」

五九 御灌頂警固場所図〔外題〕 一鋪 五二・八×一一六・三。

〔備考〕「川原畑重成持」とあり。

六〇 布施座之図〔ほか指図〕 八枚一綴

(内容) 布施座之図 五七・〇×三九・七。

後夜道場 二七・八×三九・一。

初夜道場 二七・七×三九・七。

御受者加持之図 三九・六×二七・七。

聽聞所并拜見場之次第 四〇・三×二八・六。

三摩耶戒 二七・七×三九・六(貼紙あり)。

嘆徳所 三九・八×二七・七。

集会所 三九・七×二七・七。

六一 灌頂道場差図 断片 三紙

(備考) ①二六・〇×二七・二、②二〇・〇×二七・四、③二〇・〇×二

八・三(貼紙あり)。

〔六二〕六七 一括

(包紙一)「伝法灌頂雜要鈔 六冊」。裏面に照谷目録あり。

「未見当分如左、寛政七乙卯年／六月虫弘／灌頂甲／御灌頂次第 上下

二帖一音坊草／教戒詞小本一帖「納之」／水丁初夜供養法次第一帖「納

之」／印可作法／古文書箱／極位一階限当門等一冊／紫鈍色之事一囊／

新写図／異水如結／八鎮第一之内 仏眼／黒箱 甲中／伝法野下二／治承記帖

又同書 一、／同御中四／喜多院御室御灌頂記仁證草／付法下三／真言伝法灌頂師資

相承血脉二卷頭證／貞観寺僧正奏狀一／入室出家下三／系図新書一帖／

雜々下二(以下、折下) 観心寺方一囊四種／差図下二／真言院図一帖 円堂八角

図／大内裏図 当時御室御所図／御修法下三／修法要集二帖／笛／仁／院

家方／教雅法印状〔延文元／五十九〕一紙／雜々／行遍僧正状包紙一

(包紙二) 白紙

六二 伝法灌頂雜要鈔 一 二 (外題) 一冊 袋綴

(一・奥書)「右、以心蓮院経庫甲第二十九筥原本拜見之暇、早々奉瞻写

了、／天保三壬辰年六月六日戌刻許、／西院末流金剛仏子照道〔年十〇〕／

夏臈〇」

(二・奥書)「天保三壬辰年六月七日午刻書写之了、／照道」

六三 伝法灌頂雜要鈔 三 四 (外題) 一冊 袋綴

(三・奥書)「天保三年六月八日書写了、／(花押)」

(四・奥書)「天保三年六月十日申刻計奉拜書了、／照道」

六四 伝法灌頂雜要鈔 五 六 (外題) 一冊 袋綴

(奥書)「元徳二年季春第十、於嵯峨蓮華峯寺／僧房、依芳命染患染訖、了(奥書云)

求法資重〇(残画を写す)

天保三龍集壬辰歳夏十一月仲七日戌刻計書写了、／(梵字・ra jira) 照道」

六五 伝法灌頂雜要鈔 七 八 (外題) 一冊 袋綴

(七・奥書)「天保三年六月廿一日亥刻計、於灯下瞻写之了、／照道」

(八・奥書)「元徳二年七月廿日、於仁和寺菩提院／書写了、

「天保三年六月廿三日書写了、」

六六 伝法灌頂雜要鈔 九 十 (外題) 一冊 袋綴

(九・奥書)「天保三年六月廿八日辰半刻比拜写了、」

六七 伝法灌頂雜要鈔 十一 十二 (外題) 一冊 袋綴

(十一・奥書)「天保壬辰年穉七月五日未刻比拜写了、／照道」

(十二・奥書)「右者、以心蓮院経庫甲廿九筥原本、行法之暇奉拜書之了、

／所々不審不少、偏恐魯魚鳥馬之誤、後覽者幸可正之者也、／天保三

年〔歳次／壬辰〕秋七月〔戊／申〕八日〔壬／子〕謹誌之、／広沢末葉

金剛仏子照道」

〔六八〕九五 一括

(包紙一)「灌頂表白類」

〔六八〕八九 一括

(包紙二)「佞甲」／〈大阿表白／表白〉 伝法誦経〔六紙〕一冊」

六八 伝法水丁加行表白保(外題) 一冊 綴葉

(包紙一)「表白」／伝法灌頂加行表白保

(表紙)「伝法水丁加行表白保／右第八箱」

(奥書)「此表白者、以尊寿院／経藏頭證自筆之／本写了、／寛保二〔歳次

壬／戌〕九月廿二日／金剛仏子有證

寛政三〔歳次／辛亥〕七月廿二日、為／水丁加行奉写之了、／沙門孝賢」

六九 灌頂加行表白(外題) 一帖 折本

(外題)「灌頂加行表白」、右上「後宇多院御製、奉為菩提院信助」

(奥書)「安永六年八月八日、近日水丁前行開白／事付書寫了、宥寿」

(印記) 朱重郭長方印「仁和寺／華嚴院」

七〇 御灌頂初夜表白 孝源草(包紙) 一帖 折本

(包紙・本紙) 朱重郭長方印「仁和寺／真乘院」

(奥書)「元禄五年三月十二日／『当御室御灌頂初夜表白／以旧草斟酌而作之、』」

〔七一〕七五 一結

(包紙二)「法」／伝法灌頂加行表白(貫主御筆也)／大師作法／勤例時／入堂

(包紙二) 白紙

七一 伝法水丁加行表白(外題) 一紙 折紙

七二 糸縫 一紙 折紙

(全文)「糸縫／二月六日(木曜／替宿)／当日／二月九日(日曜／鬼宿)」

七三 勤例時 一紙 折紙

七四 入堂私(外題) 一紙 折紙

七五 大師所作西(外題) 一紙 折紙

七六 三昧耶戒(最略／有同壇儀)(書出) 一冊 横帳

七七 光孝天皇八百五十三御忌表白 一冊 横帳

(奥書)「右孝光光孝天皇八百五十之御忌表白／靈悟拜草」

七八 灌頂表白 一帖 折本

〔七九〕八〇 一括

(包紙)「惣法務一品親王御灌頂／誦經表白嘆徳并御返答／同御行莊記」

七九 安永四年三月十日／惣法務一品親王御水丁誦經表白嘆徳并御返答

(外題) 一通 折紙

八〇 同／御行莊記 一通 折紙

(印記) 朱重郭長方印「仁和寺／真乘院」

〔八一〕八二 一括

(包紙) 白紙

八一 誦經草(外題) 一冊 綴葉

(奥書)「于時宝曆十二(壬／午)四月廿三日、石山寺明王院入壇之砌

／師草之給、仍書寫了、沙弥助衛」

八二 声明 一紙 切紙

〔八三〕八四 一括

(包紙)「水丁前行表白一紙／印可前行表白一紙」

八三 印可前行表白(外題) 一冊 袋綴仮綴

(奥書)「御製灌頂加行表白、聊改句／用之了、

寛政十一年七月十六日、虫弘之砌、以法住庵上人筆跡之本写取之了、

／禪證

文化八年九月廿九日、於真光院御所、申出御本書寫了、深融」

(印記) 朱重郭長方印「仁和寺／真乘院」

八四 伝法灌頂前行表白御(外題) 一通 折紙

八五 表白伝法誦經(外題) 一冊

(表紙) 右上「伝法甲」、型紙による飛鳥の文様あり(茶色)。

(内題)「表白集」

八六 権少僧都証賢入旦初夜表白(外題) 一紙 折紙

八七 伝法初夜大阿表白(外題) 一紙 折紙

八八 衡遍入旦初夜表白(外題) 一紙 切紙

八九 伝法灌頂表白(一・外題) 三紙 折紙

〔九〇〕九五 一括

(包紙) 白紙

九〇 成証灌頂初夜表白(外題) 一帖 折本 押界

(外題) 右上「表白箱」

(奥書)「寛政三年十月十八日(日曜／鬼宿)／初授与伝法灌頂於権少僧

都成證、初夜時用／此啓白、是則禪助僧正／初授与頭眷阿闍梨／之時草

也、以成助筆記、命寛成／令写之、聊加差矣、金剛仏子(花押)」

九一 誦經導師表白 其他誦經草 一括 五点

(包紙一)「誦經草／宥助」、朱重郭長方印「仁和寺／真乘院」

(包紙二)「法印有助灌頂誦經表白／法輪院之作也、」

(一) 一冊 綴葉

(奥書)「元文五庚申年十月二日、／心蓮院權律師宥助入壇_予艸之、／宥
心」

(二) 一紙 折紙 表白

(三) 一冊 綴葉 表白

(四) 一紙 折本 (外題)「初夜導師作法」のみ残欠。

(五) 一冊 綴葉 次第 表紙欠

〔九二・九三 一結〕

(包紙)「享保廿一年正月／伝法灌頂誦經艸」、右下「仁和寺／真乘院」

九二 享保廿一年二月日伝法灌頂誦經艸 一帖 折本 天地墨界

(外題)「伝法／灌頂誦經艸」

(奥書)「右之一帖者、愚身灌頂之誦經之艸也、／權僧正秀瑜勤之也、彼僧
正之以本／写之畢、／享保廿一年二月日 金剛子宥證」

九三 灌頂誦經 一紙 折紙

(一) (外題)「灌頂誦經」一紙 折紙

(二) (外題)「伝法灌頂誦經草」一紙 折紙

九四 大覚寺灌頂誦經草 一通 折紙

(包紙)「大覚寺灌頂誦經草 二通」

(奥書)「寛保三年九月廿六日、／嵯峨大覚寺門主灌頂誦經_予勤仕／之時用
之了、／金剛_子宥證」

(印記)朱重郭長方印「仁和寺／真乘院」(包紙裏・本紙)

九五 誦經草 二冊 横帳

(包紙)「十二日／十四日／誦經草」

(一) 日付注記なし。

(二) 表紙右上隅「十二日」、朱訓点。

九六 灌頂決疑鈔_{甲乙} 二冊

(一) 縹色表紙貼紙外題「灌頂決疑鈔_甲」、右上「灌頂_甲」

(奥書)「元禄十七二月廿五日夜一交了、」

(備考) 彩色挿圖あり。「伝法灌頂決疑抄序」あり、末尾「時元禄壬申仲
春下浣、書於真乘院南窓、／広沢末資_{真乘院法華大僧正}苾芻孝源」。『真言宗全書』二七。

(二) 縹色表紙貼紙外題「灌頂決疑鈔_乙」、右上「灌頂_甲」

(内題)「胎藏界伝法灌頂作法」

(識語)「元禄五年二月廿三日夜於灯下一校了、」

(奥書)「元禄十六年十月廿七日夜亥剋計書写了、／右前真乘院孝源大僧

正 宮灌頂之節、／此二帖選集畢、」

(川本慎自・木下竜馬・林 晃弘・藤原重雄・堀川康史)

14 仁和寺所蔵史料(書籍函)の調査・撮影

二〇二二年一二月六日から八日まで、総本山仁和寺(京都市右京区御室大
内)を訪れ、同寺所蔵史料のうち書籍第四十函を中心とする禅籍類の調査を
行った。全点について調書を作成し、写本および版本のうち書き入れが見え
るものについては全丁を撮影したが、版本で書き入れの見えないものについ
ては首尾のみの撮影とした。参考までに同函の書誌を左に掲げる。複数巻あ
る史料の外題・小口書は原則として第一冊のみ記し、「」は墨書、「」は
朱書、〈〉は小字、《》は訂正書人を示す。

なお、本採訪には拠点共同研究員の榎本涉氏(国際日本文化研究センタ―
准教授)の同行を得た。また、実施にあたっては仁和寺管財課朝川美幸氏の
ご高配を賜った。記して御礼申し上げます。

書籍第四十函

一 開書 大蟲宗岑等撰

袋綴装。二四・一×一七・九センチ。一二丁。表紙外題直書「(古本)／

開書」、表紙押紙「露」。印記「仁和寺文庫」(朱方印、陰陽刻、重ね捺し

か)。付箋(後補)「妙心寺岑大虫語 一冊」。内容は、天正九年孟秋大蟲

宗岑語、某年林鐘日玄膺書状写ほか。

写本 一冊

二 西源翁咬唾 特芳禪傑撰

写本 一冊

袋綴装。二六・一×二〇・一センチ。八四丁。表紙外題直書「西源翁咬唾」、表紙押紙「露」。第四丁内題「西源和尚語録」。印記「仁和寺」（朱額印）。半葉一二行二三字。

三 下語

写本 一冊

袋綴装。二五・一×一八・二センチ。二八丁。表紙外題直書「下語」、表紙押紙「露」。印記「仁和寺」（朱額印）。奥書「皆元龜貳載孟夏日書焉」。

四 五味禪

版本 一冊

袋綴装（包背装）。二四・八×一五・五センチ。三七丁。表紙識語「乙第十箱」。首題「三祖鑑智禪師信心銘」。印記「法住庵」（朱方印、陽刻）。整版（五山版カ）、八行一八字、匡郭左右双辺、内寸一七・九×一〇・八センチ、版心白口单魚尾、十牛図の丁は黒口。表紙見返し識語「從良賢傳領了」□□《頭證》。内容は信心銘・證道歌・十牛図・坐禅儀・入衆日用。朱墨書入れあり。表紙に紙背文書あり（室町前期以前か）。

五 禪宗無門関

版本 一冊

袋綴装（五ツ目綴）。二五・五×一七・五センチ。三五丁。表紙刷外題箋「大字」禪宗無門関 全、表紙押紙「露」。首題「禪宗無門関／参学比丘 弥行 宗紹編」。尾題「無門関終」。印記「仁和寺文庫」（朱方印、陰陽刻）。付箋（後補）「禪無門関 全」。整版、一行一六字。匡郭四周双辺、内寸一九・六×一五・〇センチ、版心白口双魚尾。刊記「寛文九（己酉）歳孟春吉旦」。

六 禪家龜鑑

版本 一冊

袋綴装。二七・五×一七・七センチ。三一丁。表紙外題直書「禪家龜鑑」、表紙押紙「露」。首題「禪家龜鑑／曹溪退隱 述」。尾題「禪家龜鑑終」。印記「仁和寺心蓮院」（朱方院、陽刻）。付箋（後補）「禪家龜鑑全」。小口書「禪家龜鑑」。整版、一〇行二〇字。匡郭四周双辺、内寸二〇・〇×一四・八センチ、版心白口单魚尾。刊記「寛永十二（乙亥）歳中夏良日開板」。朱墨書入れあり。

七 由良開山法灯国師法語

版本 一冊

袋綴装。二七・二×一七・六センチ。二〇丁。表紙刷外題箋「□良開山法語」、表紙押紙「露」。首題「由良開山法燈國師法語」。印記「仁和寺」（朱額印）。付箋（後補）「由良法語 全」。小口書「由良法語 全」。整版、一〇行二〇字前後。匡郭四周单辺、内寸二・八×一五・七センチ、版心黒口双魚尾（花魚尾）。刊記「慶安元歳霜月吉旦 利兵衛開」。

八 六祖壇経

版本 二卷一冊

袋綴装。二七・八×一八・二センチ。四八丁。表紙刷外題箋「□□壇経」、表紙押紙「露」。首題「六祖壇経卷上」、尾題「六祖壇経卷下」。印記「仁和寺」（朱額印）。付箋（後補）「六祖壇経 全」。小口書「六祖壇経」。整版、九行一七字。匡郭四周双辺、内寸一九・五×一五・〇センチ、版心黒口双魚尾（花魚尾）。刊記「寛永辛未暮春吉旦／中野市右衛門梓行」。

九 四部録

版本 一冊

袋綴装。二八・〇×一八・二センチ。二〇丁。表紙刷外題箋「四部録全」、表紙押紙「露」。印記「仁和寺」（朱額印）。付箋（後補）「四部録全」。小口書「四部録 全」。整版、一〇行一七字。匡郭四周单辺、内寸二〇・三×一五・三センチ、版心白口三魚尾（花魚尾）。刊記「慶安二（己丑）孟春日／二条通松尾町山屋治右衛門」。

一〇 靈源和尚筆語

版本 一冊

袋綴装（五ツ目綴）。二八・五×一七・八センチ。五二丁。表紙外題箋墨書「靈源筆語」、表紙押紙「露」。首題「靈源和尚筆語」、尾題「靈源和尚筆語 終」。印記「仁和寺」（朱額印）。付箋（後補）「靈源筆語 全」。小口書「靈源筆語」。整版、一〇行一八字前後。匡郭四周双辺、内寸二一・二×一四・四センチ、版心黒口双魚尾（花魚尾）。刊記「二条通観音町風月宗智刊行」。

一一 永明道跡

版本 一冊

袋綴装（五ツ目綴）。二八・七×一八・七センチ。四二丁。表紙刷外題箋「永明道蹟 全」、表紙押紙「露」。尾題「永明道蹟 終」。印記「仁和寺文庫」（朱方印、陰陽刻）。小口書「永明道蹟 全」。整版、一〇行二〇字（序は六行）。匡郭四周双辺、内寸一九・七×一三・三センチ、版心白口单

魚尾。刊記「明暦元(乙未) 曆七月中旬 / 中野是誰梓行」。末尾に「永明壽禪師放生文」(萬曆歲次丙午秋九月霜降日古杭淨慈寺大齋稽首書)あり。

二二一四 夢中間答

版本 三卷三冊

袋綴装(五ツ目綴)。二七・〇×一九・四センチ。上四五丁、中五〇丁、下四七丁。表紙刷外題箋「夢中間答 上」、表紙押紙「露 共三」。首題「夢中間答集上」、尾題「夢中間答卷下終」。印記「仁和寺文庫」(朱方印、陰陽刻)。小口書「□答」(卷中)。整版、一二行三〇字程度(漢字仮名交じり)。匡郭四周双辺、内寸二二・一×一七・一センチ、版心黒口双魚尾(花魚尾)。刊記「寛永甲戌三月吉日 / 書林豊雪齋道伴刊」。巻下末尾に康永元年重陽後十日・三年十月初八日の竺仙梵僊跋あり。

一五一九 碧巖集

版本 十卷五冊

袋綴装(五ツ目綴)。二七・四×一九・七センチ。①三六丁、②三〇丁、③二六丁、④二五丁、⑤三八丁。表紙刷外題箋「新刻」碧巖集 一二、表紙押紙「露 共五」。首題「佛果圓悟禪師碧巖錄卷第一」、尾題「佛果圓悟禪師碧巖錄卷第十終」。印記「仁和寺文庫」(朱方印、陰陽刻)。小口書「碧巖集 一」。整版、一行二二字。匡郭四周双辺、内寸二二・〇×一六・四センチ、版心黒口双魚尾(花魚尾)。封面刊記「杭州北橋北街東嶼中張氏書隱印行 / 本朝濃州路瑞龍禪寺新刊」。第五冊三二丁ウに「中野是誰」とあり。

二〇二五 正法眼藏 大慧宗杲撰

版本 三卷六冊

袋綴装。二八・五×一八・五センチ。①四四丁、②三九丁、③四二丁、④四二丁、⑤四四丁、⑥三九丁。表紙外題直書「正法眼藏卷上」、表紙押紙「露 共六」。首題「正法眼藏卷上」、尾題「正法眼藏卷終」。印記「仁和寺」(朱額印)。小口書「正法眼藏上之一」。古活字版、一行二一字。匡郭四周双辺、内寸二〇・八×一四・六センチ、版心黒口双魚尾。全冊に朱句切点・朱引あり、第四冊に朱字校訂書入れあり。駒沢本・内閣本と同版か。

二六二七 密宗安心義章

版本 二卷二冊

袋綴装。二二・二×一五・〇センチ。①三五丁、②三五丁。表紙刷外題箋

「密宗安心義章 上」、表紙押紙「露 共二(甲)」。首題「密宗安心義章卷上」、尾題「密宗安心義章卷下」。印記「真言宗□□□(法務所力)之藏版」(朱方印、陽刻)。整版、一〇行二五字。匡郭四周双辺、内寸一七・六×一二・七センチ、版心白口單魚尾。刊記「明治十六年八月二日版權免許 / 全 八月出版(以下略)」。

二八二九 臨濟錄

版本 二卷二冊

袋綴装。二六・三×一九・〇センチ。①五〇丁、②二〇丁。表紙刷外題箋「首書」臨濟錄 上、表紙押紙「露 共二」。首題「鎮州臨濟慧照禪師語錄」、尾題「鎮州臨濟慧照禪師語錄 終」。印記「仁和寺文庫」(朱方印、陰陽刻)。小口書「臨濟錄上」。付箋(後補)「臨濟錄 二冊」。整版、本文九行一三字、注二〇行三一字。匡郭四周单辺、内寸二二・九×一六・八センチ、版心黒口双魚尾。刊記「萬治三曆極月吉日 / 文臺屋治郎兵衛 / 敦賀屋三右衛門 / 開板」(版元名は埋木か)。上冊第一丁欠。

三〇三五 驢鞍橋

版本 三卷六冊

袋綴装。二六・一×一八・八センチ。①三〇丁、②三三丁、③二五丁、④二五丁、⑤三四丁、⑥二三丁。表紙刷外題箋「驢鞍橋 一」、表紙直書「露(甲) 共六」「才」。首題「驢鞍橋上」、尾題「驢鞍橋卷下終」。印記「仁和寺文庫」(朱方印、陰陽刻)。付箋(後補)「驢鞍橋 六冊」。整版、一行二三字。匡郭四周单辺、内寸二一・二×一七・一センチ、版心黒口双魚尾。刊記「寛文九曆(己酉) / 孟春吉辰 山本平左衛門」。

三六三八 臨濟錄夾山鈔

版本 十卷三冊

袋綴装。二六・三×一八・九センチ。①一一九丁、②九九丁、③九八丁。表紙外題直書「臨濟慧照禪師語錄 上」、表紙押紙「露 共三」。首題「鎮州臨濟慧照禪師語錄序」、尾題「鎮州臨濟慧照禪師語錄卷十終」。版心題「臨濟錄 夾山鈔」。印記「仁和寺文庫」(朱方印、陰陽刻)。小口書「臨濟慧照 上」。整版、六行一四字。匡郭四周双辺、内寸二〇・四×一五・二センチ、版心白口双魚尾(花魚尾)、注双行。刊記「承應三(甲午) 歲仲夏吉祥 / 寺町通圓福寺前之町 / 秋田屋平左衛門板行」。

三九五四 達磨多羅經說通考疏

版本 二卷六冊

袋綴装。二六・六×一九・一センチ。①八二丁、②八五丁、③七八丁、④六五丁、⑤六九丁、⑥七五丁。表紙刷外題箋「達磨禪經說通考疏（上之）一」一、表紙押紙「露 共六」。首題「達磨多羅禪經說通考疏」、尾題「達磨多羅禪經說通考疏卷尾」。印記「聊百過」（朱方印、陰刻）。整版、一三行二三字。匡郭四周双辺、版心白口單魚尾。刊記「明治廿六年十二月十二日印刷／全年全月十五日發行（以下略）」。朱書入れ・朱引あり。

四五 拈香

写本 一冊

袋綴装。二八・三×二〇・二センチ。一〇丁。表紙外題直書「拈香」、表紙押紙「露」。首題「萬松院殿率哭諱拈香拙語」。付箋（後補）「萬松院殿拈香」。印記「仁和寺」（朱額印）。朱句切点・朱引あり。内容は、萬松院殿率哭諱拈香拙語（天文十九年、策彦周良）、同聚禪院修造幹縁簿（天文二十年、文餘令緒、扇面王母猷桃図〔贊〕（了庵桂悟、花溪之銘并序（天文二十一年、彭叔守仙）、前真如東谷寅禪師慈容〔贊〕、寿翁之銘（永正八年、自悅守擇）ほか。

四六・四七 戒殺放生物語

版本 二冊

袋綴装。二七・四×一八・七センチ。①三八丁、②四七丁。表紙刷外題箋「雲棲大師戒殺文 上」、表紙押紙「露 共二」。首題「戒殺物語一」（第一冊）、「放生物語三」（第二冊）。印記「仁和寺文庫」（朱方印、陰陽刻）。整版、一〇行二三字前後（漢字仮名交じり）。匡郭なし。刊記「寛文四甲辰孟春吉旦」。

四八〜五〇 禪門章

版本 三冊

袋綴装。二六・八×二七・〇センチ。①三二丁、②三二丁、③四二丁。表紙刷外題箋「支那／撰述」禪門章 上、表紙押紙「露 共三」。首題「禪文章」、尾題「禪文章 畢」。小口書「禪門章 上」。印記「仁和寺文庫」（朱方印、陰陽刻）、「了□」（朱方印、陽刻）。整版、九行一八字。匡郭四周双辺、内寸一八・四×二一・六センチ、版心白口無魚尾。刊記「天和二壬戌年／卯月上浣／長谷川市郎兵衛／村田三四郎／淺野久兵衛／開板」。

五一 大慧普覺禪師書

版本 二卷二冊

袋綴装。二八・〇×一七・九センチ。①四五丁、②四五丁。表紙刷外題箋「□慧書 下」（第二冊のみ）、表紙押紙「露 共二」。首題「大慧普覺禪師書」、尾題「大慧普覺禪師書」。印記「仁和寺」（朱額印）。整版、一一行二〇字。匡郭四周双辺、版心黒口双魚尾。刊記「寛永庚午仲夏月／中野道也新刊」。欄上に墨書書入れあり。

五二〜六三 碧巖集種電抄

版本 十卷十二冊

袋綴装（五ツ目綴、包角）。二五・七×一九・〇センチ。①六一丁、②四一丁、③四〇丁、④四三丁、⑤六二丁、⑥六二丁、⑦五三丁、⑧五三丁、⑨四九丁、⑩五三丁、⑪六一丁、⑫六三丁。表紙刷外題箋「碧巖集種電抄一之乾」、表紙押紙「露 共十二」。首題「佛果圓悟禪師碧巖集種電抄第一／肥之前州釋嗣祖沙門 統大智撰」、尾題「佛果圓悟禪師碧巖集種電抄卷十大尾」。付箋（後補）「碧巖集／種電抄」。整版、一〇行二一字。匡郭四周双辺、内寸二〇・八×一五・八センチ、版心白口單魚尾、注双行。刊記「於大智和尚五十年忌此版寄附法藏寺／松岳玄高 淨清 了空 惠性／慈玄浄心 慈松 瑞玄 桃津氏先祖代々／施主大坂桃津頼女梅尊祖英禪尼喜捨／天明四年辰二月 廷秀識」（第一冊）、「元文四年己未年」（第十二冊）。冊尾に近代活字による「出雲路松栢堂発売目錄」を付すものあり。

六四〜六六 草庵雜記

版本 三卷三冊

袋綴装（五ツ目綴）。二七・三×一九・五センチ。①三二丁、②三〇丁、③三六丁。表紙刷外題箋「〈新刻〉草庵雜記 上」、表紙押紙「露 共三」。首題「草庵雜記卷之上」、尾題「草庵雜記下卷終」。印記「仁和寺文庫」（朱方印、陰陽刻）。小口書「草庵雜記上」。付箋（後補）「草庵雜記三冊」。整版、一〇行二〇字。匡郭四周单辺、内寸二一・二×一六・六七センチ、版心黒口双魚尾。刊記「寛文九〔己酉〕年孟夏仲旬／山本平左衛門板行」。

六七〜七〇 大方圓覺略疏注經

版本 四卷四冊

袋綴装。二八・二×二〇・〇センチ。①四二丁、②四一丁、③三八丁、④四〇丁。表紙外題箋墨書「圓覺畧疏 甲」、表紙押紙「露 共四」、表紙丹色、雷文繫蓮華型押。首題「大方廣圓覺略疏注經序／金紫光祿大夫守中書

侍郎兼戸部尚書同中書門下平章事充集賢殿大學士裴休撰、尾題「大方廣圓覺略疏注經卷第四」。印記「仁和寺」（朱額印）。小口書「圓覺疏注」。「甲」。古活字版カ、八行一七字。匡郭なし、版心無魚尾。注双行。朱句切点・返点あり。

七一・七二 御註円覺經

版本 二卷二冊

袋綴装。二八・八×二〇・五センチ。①五二丁、②四八丁。表紙刷外題箋「御註圓覺經 上」、表紙押紙「露 共二」。首題「御註大方廣圓覺修多羅了義經上」、尾題「御註大方廣圓覺修多羅了義經終」。印記「仁和寺」（朱額印）。小口書「御註圓覺」。付箋（後補）「御註」圓覺經 二冊。整版、七行一五字。匡郭四周单边、内寸二四・二×一四・九センチ、版心黒口双魚尾（花魚尾）、注双行。朱句切点あり。刊記「寛永十七（庚辰）年孟夏吉日／中野是誰」。

七三〜七六 緇門警訓

版本 二卷四冊

袋綴装。二八・六×二〇・五センチ。①三五丁、②六〇丁、③五三丁、④六四丁。表紙刷外題箋「緇門警訓 上之一」、表紙押紙「露 共四」。首題「緇門警訓卷上」。印記「仁和寺」（朱額印）。小口書「緇門警訓上之一」。整版、一〇行二一字。匡郭四周双辺、内寸二二・二×一五・五センチ、版心黒口双魚尾（花魚尾）。

七七〜八三 虚堂和尚語録

版本 三卷七冊

袋綴装。二七・六×二〇・五センチ。①五二丁、②五四丁、③四六丁、④四三丁、⑤八二丁、⑥七五丁、⑦九〇丁。表紙刷外題箋「虚堂和尚語録 一」、表紙押紙「露 共七」、表紙直書「共七」。首題「嘉興府興聖禪寺虚堂和尚語録」、尾題「虚堂和尚新添終」。印記「仁和寺」（朱額印）。小口書「虚堂語録一」。整版、八行一七字。匡郭四周双辺、内寸二〇・五×一四・五センチ、版心黒口双魚尾（花魚尾）。刊記「寛永九年壬申九月／中野市右衛門刊行」。

八四・八五 禪儀外文集

版本 二卷二冊

袋綴装。二八・二×二〇・六センチ。①八二丁、②六一丁。表紙刷外題箋「禪儀外文集 下」（第二冊）、表紙押紙「露 共二」。首題「禪儀外文

集」、尾題「禪儀外文集卷下終」。印記「仁和寺」（朱額印）。小口書「禪儀外文」。付箋（後補）「禪儀」。整版、六行一六字、匡郭四周双辺、内寸二〇・七×一五・九センチ、版心黒口双魚尾（花魚尾）。刊記「寛永丁丑仲秋吉日／中野市右衛門刊行」。

八六〜九三 臨濟録瑞巖鈔

版本 八卷八冊

袋綴装（五ツ目綴）。二六・九×一九・四センチ。①六四丁、②七四丁、③七五丁、④七九丁、⑤七六丁、⑥七〇丁、⑦六五丁、⑧七二丁。表紙刷外題箋「臨濟録瑞巖鈔 一」、表紙押紙「露 共八」。首題「鎮州臨濟慧照禪師語録卷之一／住三聖嗣法小師慧然集／前住三聖丹州瑞巖見叟智徹解」。尾題「鎮州臨濟慧照禪師語録瑞巖鈔卷之八終」。印記「仁和寺文庫」（朱方印、陰陽刻）。小口書「臨濟瑞巖」。整版、一〇行二一字。匡郭四周单边、内寸二一・六×一四・八センチ、版心黒口双魚尾、注双行。冒頭に「鈔臨濟大師語録序」（寛文十一歲次辛亥九月日海藏遠孫岐山見叟智徹自陳）あり。刊記「助縁 爲所願満足 岩手重好」（第四冊）、「助縁 處 靈覺 尚治 光月 元格 壽清／宗爲 貞讚 正輪 方女 道然 道賀 禪味／祖淳 是心 融智 妙喜 光成 道巴 妙巴／令片 令永 令田 令昌 慧学 向心／若干人」（第六冊）、「助縁／證阿／道貴／南條氏 僖女」（第七冊）、「助縁 爲所願満足 岩手重好」（第八冊）。

九四 仏祖正印源流道影贊

版本 一冊

袋綴装。二六・九×一七・八センチ。七八丁。表紙刷外題箋「支那撰述 佛祖正印源流道影贊」、表紙押紙「露 共六」、表紙直書「不」。首題「佛祖正印源流道影贊」。印記「仁和寺文庫」（朱方印、陰陽刻）。整版、一〇行二〇字、匡郭四周双辺、版心白口無魚尾。九四〜九九号を一帙に収む（ただし帙は大破）。

九五〜九九 即非禪師全録

版本 二十五卷六冊

袋綴装。二六・九×一七・八センチ。①二〇七丁、②一〇九丁、③一〇六丁、④一一二丁、⑤一〇〇丁、⑥七二丁。表紙刷外題箋「支那撰述 即非禪師全録（卷一之五）」、表紙押紙「露 共六」。首題「即非禪師全録卷之一」。印記「仁和寺文庫」（朱方印、陰陽刻）。整版、一〇行二〇字、匡

郭四周双辺、版心白口無魚尾。刊記「板存嘉興楞嚴寺經坊／附藏流通倪爾繩刻」。

一〇〇～一〇三 仏日真照禪師語録

版本 一冊（同本三部）

袋綴装。二六・五×一八・七センチ。七二丁。表紙刷外題箋「〔衡梅〕佛日真照禪師語録」、表紙押紙「露」。首題「佛日真照禪師雪江和尚語録」。

印記「仁和寺文庫」（朱方印、陽刻）。整版、一〇行二〇字、匡郭四周双辺、内寸二〇・二×一四・三センチ、版心白口無魚尾、注単行。刊記「衡梅藏板」。冊首に「佛日真照禪師語録叙」（明和二年乙酉六月初二日再住妙心遠孫比丘禪悅稽顙謹題）、冊尾に助刻名記二丁・助刻追加一丁あり。

一〇三～一二二 石門文字禪

版本 三十卷十冊

袋綴装。二七・五×一九・〇センチ。①六五丁、②六〇丁、③五九丁、④

六三丁、⑤六七丁、⑥七九丁、⑦七二丁、⑧七四丁、⑨七五丁、⑩七七丁。表紙刷外題箋「〔支那撰述〕石門文字禪（一之三）」、表紙押紙「露

共十」。首題「石門文字禪卷第一」、尾題「石門文字禪卷第三十」。小口書

「文字禪 一之三」。付箋（後補）「石門文字禪 十冊。印記「仁和寺文

庫」（朱方印、陰陽刻）。整版、一〇行二〇字、匡郭四周双辺、内寸二四・

二×一五・三センチ、版心白口無魚尾。刊記「寛文四甲辰歲極月吉旦／二條通鶴屋町田原仁左衛門刻」。各卷末に万曆丁酉仲秋徑山万寿禪寺の原刊記あり。

（山家浩樹・岡本 真・榎本 渉・川本慎自）

15 「賀茂別雷神社文書」の調査・撮影

二〇二一年一月七日～九日、および二〇二二年三月二九日～三一日の二度にわたり賀茂別雷神社（京都市北区）に出張し、同社所蔵文書の調査・デジタル撮影を行った。近年の編纂所による撮影は、同神社のご協力を得て、二〇一〇年度より継続して行なっている。

「賀茂別雷神社文書」については、一九九七年年度～二〇〇二年度にかけて京都府教育委員会が、一九四五年（昭和二〇）以前の文書の網羅的調査を

実施し、目録を刊行している（『京都府古文書調査報告書第十四集 賀茂別雷神社文書目録』京都府教育委員会 二〇〇三年三月）。今回撮影した史料は、左記のとおり（番号は目録のもの）。

I—C—八三（掛幅装）

II—A（祭祀・神事）—七一、七二、七五

II—B（社司・氏人）—一五九三～五九五、六〇九～七一七、六四〇～

六五七、六七一、七二〇、七一九、九〇七～九一七

II—B—二一～一三、九二、一一六

II—C（遷宮・造営）—二、二一、二二、三〇七

II—D（撰社・末社）—一三～二二、三八～六二、八一、一三五～一

六五、一八二

II—F（諸国庄園）—一四～二六〇（Fは全点の撮影を完了した）

II—G（土地）—四一三七、三八

VC—二

校倉二六箱一～四（権祝之記）

（石津裕之・遠藤珠紀・金子 拓・木下竜馬・谷 昭佳）

16 丹後・丹波地域所在中世文書の調査・撮影

二〇二二年六月二四～二五日、京都府京丹後市に出張し、所在中世史料の調査・撮影を行った。主な撮影史料は以下の通り。

〔縁城寺文書〕京都府京丹後市

〔坪倉文書〕同右寄託

なお当日は、縁城寺住職様、京丹後市教育委員会新谷勝行氏にはたいへんお世話になった。記して謝意を表する。

（村井祐樹）

17 京都府立丹後郷土資料館寄託史料の調査・撮影

二〇二二年一月一日、一般共同研究「修理の知見を踏まえた中世真言密教聖教・紙背文書の史料学的分析」の一環として、京都府立丹後郷土資料館に出張し、同館寄託の丹後日置氏関係史料をはじめとする、南北朝期丹後関係史料の調査・撮影を行った。撮影史料は次の通り。いずれもHi-CAT Plusを通じて画像を公開する（細目は日本古文書ユニオンカタログ参照）。

〔田邊文書〕（『宮津市史』史料編 第一巻）所収）

〔百鳥講文書〕（同所収）※写真帳（6171.62-233）あり

〔堀口文書〕（同所収）※写真帳（6171.62-261）あり

〔京都府立丹後郷土資料館所蔵文書〕（観応元年十二月十一日足利義詮御判御教書・日置小次郎宛）

調査・撮影には共同研究代表の三輪真嗣氏（神奈川県立金沢文庫）も参加した。調査にあたっては、史料所蔵者各位および共同研究員の稲穂将士氏（京都府立丹後郷土資料館）にご高配を賜った。この場を借りてお礼を申し上げる。

（藤原重雄・堀川康史）

18 武田科学振興財団所蔵『実躬卿記』自筆本による原本校正

二二年三月一四〜一七日まで、大阪府大阪市武田科学振興財団杏雨書屋において、『実躬卿記』自筆本により、大日本古記録『実躬卿記』一〇の出版に必要な原本校正を行った。

（菊地大樹・尾上陽介・井上聡・遠藤珠紀）

19 東大寺文書の原本調査

二〇二二年三月一五日より一九日まで、奈良市東大寺図書館において、『大日本古文書 家わけ第十八 東大寺文書之二十五』（二〇二三年三月刊行予定）編纂のため、東大寺文書未成巻文書第一部第二四（雑荘）他の原本調査を行った。文字の翻刻の修正あるいは料紙観察からの接続確認を実施した。（遠藤基郎・高橋慎一朗・木下竜馬）

20 真言律宗総本山西大寺所蔵史料の原本校正・調査

二〇二二年二月四日から八日にかけて、奈良県奈良市の真言律宗総本山西大寺に出張し、同寺所蔵史料の原本校正・調査を実施した。

前回調査（二〇一九年度）に引き続き次期大日本古文書刊行に向け、一〇一函〜一〇六函の原本校正を行なった。

コロナ禍のなか、調査にあたっては、同寺清浄院御住職佐伯俊源先生の手厚い御協力・御配慮を賜った。この場を借りて心から御礼を申し上げたい。

（末柄豊・高橋慎一朗・西田友広・小瀬玄士）

21 薬師寺所蔵史料の調査

二〇二二年七月五〜九日に奈良県奈良市の薬師寺に出張し、奈良文化財研究所と共同で同寺所蔵史料の調査（調査作成・原本校正および撮影）を行った。今年度の撮影分は、五四函（一〜三五号止）・五五函（一〜九二号止）・五六函（一〜九九号止）・五七函（一〜四一号止）・五八函（一〜七五号止）・五九函（一〜八七号止）である。

（海上貴彦・榎原雅治・及川亘・菊地大樹・小瀬玄士・林晃弘・前川祐一郎）

22 正倉院文書調査

二〇二一年度の正倉院文書調査は、一月八日～二日の五日間、宮内庁正倉院事務所（奈良市雑司町）に出張し、調査室において原本調査を実施した。本年は、『正倉院文書目録』九・続々修四（二〇二三年三月刊行予定）に収録予定の第一三帙～第一六帙（合計三五巻）の調査を行った。

正倉院文書閲覧の許可を与えられ、調査・研究に関して便宜をお図りいただいた宮内庁及び正倉院事務所に厚く謝意を表する。

（山口英男・田島 公・遠藤基郎・稲田奈津子・黒須友里江・小塩 慶）

23 奈良県五條市栄山寺金石文調査

二〇二一年一月三〇～三一日まで、奈良県五條市栄山寺に出張し、境内一石五輪塔群および他の石造物調査を行った。本調査は、共同利用共同研究拠点一般共同研究課題「中世大和国宇智郡関連史料の研究資源化―栄山寺を中心に―」（二〇二〇・二一年度、代表・早稲田大学下村周太郎）による。

すでに二〇二〇年一月二四・二五日および同年二月二六・二七日に、一石五輪塔群の配置確認および石造物カード作成・拓本調査および撮影を行っている。本調査はこれに続くもので、五輪塔群の調査を終了するとともに、本堂前石灯籠および永祿八年二月日銘（新出）地蔵菩薩石像についても調査を行った。五輪塔については今回の調査で七一点を確認し、そのうち何らかの銘文の確認できる五七点すべてについて拓本を採集した。石造物カードおよび写真については、すべての個体について作成した。なお、本調査については太田まり子（学術専門職員）の協力を得た。

（菊地大樹）

24 和歌山県立博物館寄託菊池新家史料等の撮影調査

二〇二二年一月二八日から三一日（第一回調査）、同三月一八日から二二日（第二回調査）の両度にわたり、和歌山県立博物館で撮影調査を実施した。

古写真研究プロジェクトでは、紀州の豪商菊池家史料（本家・分家）の調査・撮影に従事し、このうち和歌山県湯浅町所蔵分について、寄託先である県博への移送作業を一月二六～二八日に実施した。今回はこの日程に合わせて、二〇二一年に先行して県博へ寄託されていた新家・菊池武昭氏旧蔵史料（和歌山県湯浅町所蔵）の撮影調査をおこなった。また、第二回目は地震史料の調査も兼ね、地震火山史料研究プロジェクトとの共同調査である。

参加者：保谷 徹・谷 昭佳・立石 了・吉岡誠也（以上、第一回／第二回）、榎原雅治・山本一夫（以上第二回）

今回調査・撮影した史料は以下の通りである。なお、菊池家史料の撮影データは、湯浅町との覚書にもとづき、ウェブ公開する予定。

○和歌山県湯浅町所蔵菊池（垣内）新家史料（菊池武昭氏旧蔵・和歌山県博寄託）約一万一五〇〇コマ

C〇二五・一 海莊手記 一〇〇冊（第一回撮影二冊／第二回撮影七九冊）
新家四代目菊池保定（海莊、一七九九～一八一）の日記。海莊は紀州藩地士となり、藩や朝廷に海防建議をおこなったことで知られる。全国的にも著名な漢詩人。日記は慶応元年三月から亡くなる直前の明治一四年まで一二五冊ある（最後の二五冊は本所所蔵）。もと南葵文庫本。

C〇二五・二 風雲雜記 三八冊（第一回）

菊池海莊による風説留。文久二年から明治二年まで。もと南紀文庫本。

C〇二五・三 民政局用事留 二冊（第一回）

風雲雜記に続く風説留。海莊が有田郡民政局副知事をつとめた時期のもの。

C〇二五・四 菊員外筆記 七冊（第一回）

海莊が副知事を罷免されてから地士が廃止になる明治四年までの風説留。

C〇二五・五 風雲外記 四冊（第二回）

C〇二五・二二 古文書・書簡類 二括（三括のうち、第二回）

菊池（垣内）新家初代の恂斎や二代義同宛ての書状類など。和歌書付を除いた書翰類のみを抽出して撮影した。

C〇二五・二三 紀伊徳川家執務日記（昭和八年～一三年）六冊（第二回）
紀州徳川侯爵家別邸の家扶日誌、昭和八・九年は主任妹尾克巳（代々木

別邸)、途中から主任野上勘四郎(中里邸)となり、昭和一〇年一月から菊池武芳(新家六代目)が記す。これに続く昭和一四年から二二年までの六冊は本所が所蔵する。

○二五―二四 海曲蟲語(安政二年) 三冊(第一回)

菊池海莊による海防建白。

○和歌山県立博物館所蔵村上天文書(第二回撮影)

「古今年代記」(裏表紙に「村上源三郎)、堅二冊／「洪浪記」村上久蔵、

卷子一卷

○和歌山県湯浅町所蔵地震関係史料(第二回撮影)

湯浅町が所蔵する「宝永四年の大潮」／「嘉永七年大地震記」

(保谷 徹)

25 小川八幡神社大般若経の調査・撮影

史料編纂所共同利用・共同研究拠点二〇一九―二一年度特定共同研究「小川八幡神社大般若経の文化資源化研究」(代表・山口英男)の一環として、和歌山県紀美野町・小川八幡神社に伝来した大般若経の調査・撮影を、寄託先の和歌山県立博物館において、七月二三―二五日、十一月一九―二二日の二回にわたって実施した。前者には伴瀬明美氏(大阪大学)の参加を得た。これにより、六〇〇巻からなる大般若経の全巻にわたる調書作成及びデジタル撮影を完了した(状態により開巻不能な箇所を除く)。小川八幡神社大般若経については、共同利用・共同研究拠点の項及び昨年度の所報・採訪報告を参照されたい。

調査・撮影にあたっては、共同研究メンバーの竹中康彦氏・坂本亮太氏(和歌山県立博物館)にご参加いただき多大のご尽力を得た。記して感謝申し上げます。

(山口英男・田島 公・尾上陽介・遠藤基郎・藤原重雄・新井重行・稲田奈津子・堀川康史・小塩 慶)

26 島根県立古代出雲歴史博物館所蔵・寄託史料の調査・撮影

二〇二二年三月八・九日に、島根県立古代出雲歴史博物館に出張し、同館所蔵・寄託史料の調査・撮影を行った。調査・撮影史料は以下の通りである。

○佐草文書(寄託)

島根県古代文化センター調査研究報告書一八『佐草家文書目録』(二〇〇三年)・同二四『佐草家文書』(二〇〇四年)を参照されたい。なお佐草文書はマイクロフィルムで二〇〇七年度に撮影したものを、再度デジタルカメラで撮影した。

○松浦文書

目次謙一「島根県立古代出雲歴史博物館所蔵「松浦家文書」中世史料の翻刻と紹介」(『島根史学会会報』五六号、二〇一八年)を参照されたい。

○嘉戸文書

永禄五年八月廿六日 毛利元就官途状写

天正十六年三月九日 毛利輝元官途状写

永禄五年十二月二日 毛利元就宛行状写

永禄九年拾二月十六日 毛利元就宛行状写

十二月廿日 毛利元就宛行状写

元亀三年正月廿九日 毛利輝元安堵状写

元亀三年極月五日 毛利輝元安堵状写

慶長四年七月廿八日 高須元与書状写

永禄四年九月七日 都治隆行書下写

四月廿六日 都治隆行書状写

○笠置文書

建治二年九月五日 佐々木泰清袖判下文

正中三年四月七日 某袖判下文

建武元年五月六日 美多荘代官西領・公文道賢連署畠地打渡状

応永三十四年四月十六日 某補任状

文明十六年八月十五日 三沢為清宛行状

永祿五年十二月二十六日 尼子義久袖判尼子家奉行人連署書状

天正二年十月二日 三沢為清・為虎連署書状

天正四年九月二十三日 尼子勝久袖判源二兵衛後家証文

年未詳三月九日 隱岐清家書状

天正十八年十二月十五日 安倍貞吉書状

年未詳六月十七日 佐世元嘉書状

年未詳六月二十二日 佐世元嘉書状

年未詳二月九日 佐世元嘉書状

年未詳十月十九日 藤原為安書状

正元元年閏十月二十五日 某八幡宮職補任状

建治三年四月日 高岡宗泰袖判下文

曆応元年八月日 沙弥某補任状

応安二年六月二十四日 某袖判宛行状

康暦元年六月一日 某宛行状

文明十九年五月十五日 三沢式部中窪宛行状

永祿八年五月六日 尼子義久宛行状

(永祿十二年) 十二月十五日 尼子勝久袖判尼子家奉行人連署宛行状

天正十年二月七日 隱岐清家書状

天正十三年十月一日 簾吉政安堵状

天正十五年八月十七日 簾吉政等連署安堵状

(天正十一年) 八月二十二日 吉川家奉行人連署書状

建治三年四月日 高岡宗泰袖判下文

明治二十八年十一月二十九日 古文書目録

○霜月廿八日 毛利元就書状

○五月七日 毛利元就書状

○三月五日 小早川隆景書状

なお本出張にあたっては、島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センターの方々にあたいへんお世話になった。記して謝意を表する。

(村井祐樹・畑山周平・西田友広)

27 海の見える杜美術館所蔵岩倉具視関係史料の調査・撮影

二〇二二年一月五日～七日・二〇二二年三月二七日～二九日、海の見える杜美術館(広島県廿日市市大野亀ヶ岡一〇七〇一)に出張し、岩倉具視関係史料の調査・撮影を行なった。一回目は写真撮影に関する準備作業と未整理分の目録作成を行ない(箱石・谷が出張)、二回目は岩倉具視関係史料のうち「功臣遺墨」一～三十巻の調査・撮影を行なった(箱石・立石・谷が出張)。なお、調査・撮影にあたっては、同館の学芸員青木隆幸氏・今城詰禎氏にたいへんお世話になった。記して感謝申し上げたい。

(箱石 大・立石 了・谷 昭佳)

28 玄濟寺・山口県文書館所蔵福原広俊関係史料の調査・撮影

二〇二二年一月一四～一五日、山口市所在の玄濟寺ならびに山口県文書館へ出張し、福原広俊関係史料の調査・撮影をおこなった。玄濟寺では同寺所蔵の福原広俊の位牌・墓石の調査・撮影をおこない、山口県文書館では同館毛利家文庫中の「遠用物」のうち、福原広俊関係史料の原本調査・撮影を実施した。玄濟寺での調査・撮影にあたっては、同寺住職のご高配を賜った。記して謝意を表する。

(石津裕之・及川 亘)

29 善導寺所蔵史料の調査・撮影

一月一日、二日、久留米市の浄土宗筑後大本山善導寺に出張し、同寺所蔵史料のうち、元和九年三月の同寺住持大通への紫衣永宣旨賜与関係史料を調査・撮影した。これは、『大日本史料』第十二編之六十三における元和九年三月二七日条の便宜合叙項目関連史料調査として行ったものである。なお、調査に際しては、同寺の佐藤学亮上人、および、久留米市教育委員会の穴井綾子氏・神保公久氏に、ひとかたならずお世話になりました。記して感謝申し上げます。

(小宮木代良・及川 亘)

30 長崎県対馬市所在史料の調査・撮影

二〇二一年二月九・一〇日、長崎県対馬市に出張し、対馬博物館所蔵史料の調査・撮影を行った。撮影史料は以下の通り。

〔藤家文書〕○対馬博物館所蔵

- | | |
|------------|---------------------------|
| 正和三年七月五日 | 某書下写 |
| 正平八年八月十二日 | 鰐口銘写 |
| かうあん二年八月三日 | 祭礼覚書 |
| (年未詳)十一月三日 | 宗貞盛書状 |
| 天文三年二月六日 | 釘進上目録 |
| 天正十年八月二十七日 | 御神領九浦之數之次第・上津八幡宮御神領之坪付之注文 |
| 慶長四年七月二十六日 | 宗義智書下 |
| 慶長十三年九月 | 峰郡田島坪付 |
| 元和四年二月五日 | 賀志大明神之御物日記 |
| 元和四年二月十六日 | 宮内之たくく |
| 寛永三年四月十日 | 八幡御宮写入目之物書上 |

- | | |
|--------------|-------------------|
| 寛永十年八月十五日 | 八幡宮御まつりおほへ |
| 寛永十一年十二月二十三日 | 於八幡宮御祈念有之覚 |
| 寛永十二年十二月吉日 | 八幡宮御祈念之帳 |
| 寛永二十年十月十日 | 賀志大明神之御物覚 |
| 正徳五年正月十五日 | 神器之覚 |
| (年未詳) 四月吉日 | 八幡宮江諸品献上名前書上 |
| (年月日未詳) | 宮司之家道具之日記 |
| (年月日未詳) | 入目 |
| (年月日未詳) | 義方様御入部御継目御判被上候目録控 |
| (年月日未詳) | 御旧判写(貞治三年、慶安元年) |
| 貞享五年八月朔日 | 慎御祈禱所 |
| 文久三年四月吉辰 | 宗義達願文控 |
| 貞和二年閏九月二十八日 | 安居料例進麦所務記 |
| 応永十年十二月二十一日 | 万福一猷寄進状写 |
| 慶長十三年九月十五日 | 峰朽木・申・佐賀之物定帳 |
| 元和五年三月十八日 | 覚 |
| 元和九年閏八月十五日 | 閏八月の神事のあとつけ |
| 寛永三年四月十日 | 正八幡宮ノウはふきあとつけ覚 |
| 康正二年三月三日 | 覚 |
| 応仁三年六月十四日 | 小式頼忠書下写 |
| 文明元年九月三日 | 宗貞国書下写 |
| 大永三年五月二十日 | 某書下写 |
| (年月日未詳) | 采地・社領等取調書上 |
| (年月日未詳) | 宗氏系図抄 |
| (年月日未詳) | 宗氏系図抄 |
| (年月日未詳) | 平氏系図抄 |
| 大永八年十月九日 | 諸覚書 |
| 明暦四年四月十七日 | 木坂八幡宮御神物之覚 |
| 明暦四年四月十七日 | 木坂八幡宮御神物之覚 |

(年月日未詳) 八幡宮・藤家関連事二付旧判写

〔蔵原中央公民館旧蔵史料〕○対馬博物館所蔵

青野ヶ原一乱記 三冊

慶長治乱記 六冊

調査にあたっては、対馬博物館の成富なつみ氏に大変お世話になった。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

(金子 拓・須田牧子・林 晃弘・畑山周平)

31 『大日本近世史料細川家史料』二十七原本校 正および公益財団法人永青文庫所蔵、熊本大 学寄託「細川家史料」調査・撮影

二〇二一年一月一七日から一九日まで熊本大学附属図書館に出張し、同館寄託、公益財団法人永青文庫所蔵「細川家史料」を閲覧し、『大日本近世史料細川家史料』二十七【細川忠利文書二十】(二〇二二年三月発行)の原本校正を実施するとともに、細川忠利・光尚関係史料を調査・撮影した。

以下に、閲覧・原本校正分と調査撮影分の通し番号、目録番号、史料名(外題)、頁数、体裁等を熊本大学附属永青文庫研究センター編集・発行『熊本大学寄託永青文庫資料総目録』の記載に拠って掲出する。

【閲覧・原本校正分】

通し番号 目録番号

史料名(外題)

頁数・体裁

29855 1023.14 寛永拾七 公儀御書案文

一冊 縦帳

29856 1023.15 寛永拾八年 公儀御書御案文

一冊 縦帳

29887 1024.21 寛永拾壹年二月ヨリ如是別帳記置御奉書之御請之御案文同

拾二年分同拾三年分同拾四年分同拾五年分同拾六年分

同拾七年分 同拾八年分

一冊 縦帳

【調査撮影分】

2436 212.15.11 (寛永五年) 九月七日(柳生又右衛門尉書状)

一通切継紙

2437 212.15.1.21 (寛永七年) 五月二日(柳生但馬守書状)

一通切継紙

2438 212.15.1.22 (寛永七年) 六月十九日(柳生但馬守書状) 一通切継紙

2439 212.15.1.23 (近世) 九月廿六日 覚忘間敷事 一通切継紙

2440 212.15.1.3 (近世) 兵法の勝まけ式ツのこゝろもちの事 一通切継紙

2441 212.15.1.4 (寛永七年) 八月十六日(柳生但馬守書状) 一通切継紙

2443 212.15.2.1 (寛永十七年) 五月廿日(細川忠利書状) 一通切継紙

2444 212.15.2.2.0 (近世) (包紙) 一点包紙

2445 212.15.2.2.1 (寛永十七年) 七月廿二日(澤庵書状) 一通切紙

2446 212.15.2.2.2 (寛永十七年) 七月廿二日(澤庵書状) 一通折紙

2449 212.22.2 (寛永十六年) 有馬御陣二付御人数兵糧米請拂御算用目録 一冊 縦帳

4237 106.11 上段 神黒番外 1.36.0 (近世) (包紙) 一点包紙

4238 106.11 上段 神黒番外 1.36.1 江戸幕府 235 一通折紙

4239 106.11 上段 神黒番外 1.36.2 江戸幕府 236 (寛永十二年) 正月九日(江戸幕府老中書状) 一通折紙

4256 106.11 中段 神黒番外 1.11.0 元文元丙辰年八月廿二日(包紙) 一点

4257 106.11 中段 神黒番外 1.11.1 正保三年八月六日御知行所付之目録 一通 縦紙

4258 106.11 中段 神黒番外 1.11.2 寛永廿年十月吉日(細川三齋判物) 一通 縦紙

4259 106.11 中段 神黒番外 1.11.3 寛永十九年(細川三齋判物) 一通 縦紙

4260 106.11 中段 神黒番外 1.12.0 (近世) (包紙) 一点 包紙

4261 106.11 中段 神黒番外 1.12.1 (寛永十二年) 正月廿二日(細川忠利書状写) 一通 折紙

4262 106.11 中段 神黒番外 1.12.2 (正保二年) 十月廿九日(細川光尚達書) 一通切継紙

4263 106.11 中段 神黒番外 1.12.3 (正保二年) 二月十三日 寛 一通切継紙

4264 106.11 中段 神黒番外 1.12.4 (正保二年) 四月廿二日(細川光尚達書) 一通切継紙

4265 106.11 中段 神黒番外 1.12.5

34783	1047.1.1	(正保二年) 十月廿九日 (細川光尚達書追而書)	一通切継紙
	元和九年	(控書)	一冊 縦帳
34784	1047.1.2	(寛永二年カ)	(控書)
	寛永五年	(控書)	一冊 縦帳
34785	1047.1.3	(寛永五年)	(控書)
	寛永五年	(控書)	一冊 縦帳
34786	1047.1.4	(寛永五年)	(控書)
	寛永八年	(控書)	一冊 縦帳
34787	1047.1.5	(寛永八年)	(控書)
	寛永十九年	(控書)	一冊 縦帳
34788	1047.1.6	(寛永十九年)	(控書)
	寛永九年	～万治二年	(控書)
34789	1047.1.7	(寛永九年)	～万治二年
	寛永九年	～寛文七年	(控書)
34790	1047.1.8	(寛永九年)	～寛文七年
	寛文七年	(控書)	一冊 縦帳
34791	1047.1.9	(寛文七年)	(控書)
	万治元年	(寛書)	一冊 縦帳
34792	1047.1.10	(万治元年)	(寛書)
	万治二年	(控書)	一冊 縦帳
34793	1047.1.11	(万治二年)	(控書)
	寛文元年	(記録)	一冊 縦帳
34794	1047.1.12	(万治三年)	～寛文元年
	延宝三年	(記録)	一冊 縦帳
34795	1047.1.13	(延宝三年)	(記録)
	延宝三年	(記録)	一冊 縦帳
34796	1047.1.14	(延宝三年)	(記録)
	近世前期	(記録)	一冊 縦帳
34797	1047.1.15	(近世前期)	(記録)
			(以上)

今回の調査に際しては、新型コロナウイルス感染症流行拡大断続下、公益財団法人永青文庫学芸員佐々木英理子氏、熊本大学附属図書館長田中朋弘氏、同館利用支援担当係長廣田桂氏、同担当川内野祐子氏、永青文庫研究センター長稲葉継陽氏等から各段のご配慮を得た。記して感謝申し上げます。

(山口和夫・林 晃弘)